

甲府城下町遺跡II

— 武田二丁目（いちやまマート駐車場跡）発掘調査報告書 —

2002

株式会社 穴吹工務店
甲府市教育委員会

序

甲府市では、山梨県の歴史・文化財のシンボルともいえる甲府城とその城下町にスポットをあて、個性的で魅力的なまちづくりに鋭意取り組んでおりますが、明治以降の市街地開発や第二次世界大戦時の戦災によりまして城下町の街並みや情緒が失われており、歴史的遺産や伝統文化の保存・再生が大きな課題となっております。

当教育委員会ではこうした状況に対処していくため、平成10年度に文化庁から示されました新たな発掘基準に添って、甲府城内及び武家屋敷地につきまして開発に伴う事前の発掘調査を進め、遺構の記録保存と歴史・文化の解明に力をいれているところでございます。

その成果の一部は、昨年3月、「甲府城下町遺跡Ⅰ」として刊行させていただきましたが、本書はその第2弾として「いちやまマート駐車場跡」の調査成果をまとめ、編集・発行の運びとなったものでございます。

調査地点は武家屋敷地と商職人町の間を区画していた甲府城二の堀に接する場所であり、予想どおり近世の建物跡や井戸などが検出されておりますが、戦国時代の甲府城下町の痕跡も発見され、武田氏時代の城下町の広がりを考古学的に実証することができました。

最後になりましたが、開発事業にあたられました株式会社穴吹工務店には、マンション建設のスケジュールを見直していただいたばかりか、調査経費の負担や発掘事務所用建物の御提供をいただきなど、多方面にわたる御理解と御協力を賜りました。深甚なる謝意を表しますとともに、今後ともに埋蔵文化財と開発事業の調和につきまして御支援をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成14年2月

甲府市教育委員会

教育長 金 丸 晃

例　　言

1. 本書は、山梨県甲府市武田二丁目8番地に所在する「甲府城下町遺跡（いちやまマート駐車場跡）」の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、株式会社穴吹工務店と甲府市教育委員会との協議に基づき、発掘調査に係る契約を締結して実施した。
3. 調査経費は、事前の試掘調査を甲府市教育委員会が、本調査を株式会社穴吹工務店が負担した。
4. 調査期間は、試掘調査を平成13年1月18日から3月上旬まで断続的に実施し、本調査を3月7日～30日、4月4日～19日の間に実施した。
5. 試掘調査は伊藤正幸・平塚洋一（甲府市文化財主事）が行い、本調査は伊藤・佐々木満（同）が担当した。
6. 本書の執筆は、日黒秀文化芸術課長を編集責任者とし、伊藤（遺構）・志村憲一（遺物）が行った。遺物観察表については鈴木由香が、伊藤の指示のもとで作成した。
7. 1区に係る全体図・航空写真に関しては、株式会社シン技術コンサルとの委託契約により作成した図面とともに本書に掲載したものである。
8. 本書の挿図は中村里恵・望月秀和・内藤真千子・栗田かず子・林久美子・鈴木由香・望月小枝・山崎雅恵が作成した。
9. 本書に係る出土遺物および記録図面、写真等は、甲府市教育委員会が保管している。

凡　　例

本書に掲載した遺構図面・遺物図面は以下のとおりである。

1. 全体図における座標数値は平面垂直座標第VIII系（原点：北緯36度0分 東経138度30分）に基づく数値である。
2. 遺構は調査区単位、遺物は全調査区通しでの番号とした。
3. 全体図における記号は次のとおりである。
SB：建物跡 SD：溝跡 SK：土坑 SE：井戸跡 P：ピット
4. 全体図及び遺構図、遺物実測図の縮尺は、図面上に表示したスケールのとおりである。
5. 遺構断面図中の水準点に付した数字は標高を表し、単位はmである。
6. 挿図中の北は国土座標の北を示す。
7. 実測図内のスクリーントーンの図示は以下のとおりであるが、部分的に異なる場合には、個々の図面上に表示した。



地　山



磚・石



摂　乱



木



漆



溶融物

目 次

序 言	
例 例	
凡 例	
目 次	
挿図・挿表目次	

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査方法・調査組織	1

第2章 遺跡の立地

第1節 地理的・歴史的環境	2
第2節 調査位置と基本層序	3

第3章 調査成果

第1節 1区の調査成果	4
1. 遺構概要	4
2. 遺構と遺物	4
(1) 溝 跡	4
(2) 土 坑	4
(3) 井戸跡	8
(4) 碓石・ピット	8
(5) 遺 物	11
第2節 2区の調査成果	17
1. 遺構概要	17
2. 遺構と遺物	17
(1) 建物跡	17
(2) 溝 跡	17
(3) 土 坑	17
(4) 井戸跡	17
(5) ピット	22
(6) 遺 物	22
第3節 3区の調査成果	28
1. 遺構概要	28
2. 遺構と遺物	28
(1) 溝 跡	28
(2) 土 坑	28
(3) 井戸跡	28
(4) ピット	28
(5) 遺 物	32
第4章 まとめ	35

挿図・挿表目次

図 1 調査位置と立地	3
図 2 1区全体図・東壁セクション	5
図 3 1区 1号～8号溝跡	6
図 4 1区 1号～8号溝跡セクション	7
図 5 1区 1号～11号土坑	9
図 6 1区 1号井戸跡	10
図 7 1区 碓石	10
図 8 1区 1号～5号、7号(1)溝跡出土遺物	12
図 9 1区 7号溝跡(2)、1号・2号、4号～6号、11号土坑、1号井戸跡、 ビット等出土遺物	13
図10 1区 8号土坑出土遺物(1)	14
図11 1区 8号土坑出土遺物(2)	15
図12 1区調査区内出土遺物	16
図13 2区全体図	18
図14 2区 1号建物跡	19
図15 2区 1号～5号溝跡	20
図16 2区 1号・2号土坑	21
図17 2区 2号井戸跡	22
図18 2区1号建物跡、1号土坑(1)出土遺物	24
図19 2区 1号土坑出土遺物(2)	25
図20 2区 2号土坑、2号井戸跡、ビット、調査区内出土遺物	26
図21 2区調査区内出土遺物	27
図22 3区全体図	29
図23 3区 2号・3号・4号溝跡	30
図24 3区 1号溝跡、1号～6号土坑	31
図25 3区 3号溝跡、2号・4号・5号土坑(1)出土遺物	33
図26 3区 5号土坑(2)、1号井戸跡出土遺物	34

付図 甲府城下町遺跡（いちやまマート駐車場跡）全体図

1区ビット観察表	37
2区ビット観察表	38
3区ビット観察表	40
遺物観察表(1)～(3)	41

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

甲府市武田二丁目8番地、甲府城二の堀の北隣に位置する本調査地点は戦後暫くの間、医院になっていたが、その後スーパーマーケットの駐車場として利用されてきた。表面上はアスファルト舗装を施した空閑地になっている。

この位置に平成12年10月、集合住宅（地上7階建）建設計画が明らかとなり、甲府市教育委員会では、事業者に文化財保護法に基づく周知の埋蔵文化財包蔵地内での工事に先立つ届出（法第57条の2）を提出するよう指導し、平成13年1月18日から試掘調査に着手した。

試掘調査は建物建築部分約900m²を対象に実施した。その結果、家の廃材などを埋めた擾乱が数か所確認できたと同時に、溝跡・土坑・井戸跡等の遺構に伴って、陶磁器及び木製品等が出土した。そのため、甲府市教育委員会では本調査が必要である旨の報告書を業者に提出、その報告に基づき両者で協議を行い、本調査を実施するとともに、引き続き遺物整理作業及び報告書作成業務を実施した。

第2節 調査方法・調査組織

1. 調査方法

試掘調査の成果及び建物の配置などを検討しながら調査区を3区に分けた。したがって遺構・遺物の記録は各区毎に行ったが、基準杭は各調査区を通して設定している。

基準杭の設定は、当初調査区の形状に合わせて任意に設定した。調査区全体で最も南東に位置する2区の南東隅にB-2を設定し、それぞれ4m間隔で西へBからH、北へ2から12までの番号をふり、南東杭をもってグリッド番号とした。さらに整理段階では、ここ数年米増加傾向にある甲府市内の発掘調査との整合性を鑑み、図郭には国上座標軸を併記した。

遺構は平面形を確認後、2分割を原則として、土層を確認しながら検出したが、個々の遺構の規模・形状により対応した。また遺物は、遺構とのかかわりの有無に関係なく位置及び水準を記録した。

2. 調査組織

調査主体 甲府市教育委員会

調査担当者 本調査 伊藤正幸 平塚洋一 佐々木満

試掘調査 伊藤正幸 平塚洋一

調査スタッフ

発掘調査 荒木昭彦 倉田勝子 佐田金子 平沢則子 古屋袈裟男 渡辺百合子 池谷富士子 岡悦子 小沢四郎 金井いく代 岸本美苗 雨宮英郎 小池孝男 小宮通子 武井美知子 塚原澄子 長沢晴雄 花曲敬子 中村孝一 坂本しのぶ 須田鉄雄 熊谷知岳 岩本永政 橋爪友宏 白川尚史 夏目和英 山田義克 吉住和人 後野裕昭 加藤陽介 加藤竜馬 天野雄次郎 河合達彦 松本和敏 飯塚聰 柏木南典 土師光雄 新井清隆 田中正典 畑原俊介 本多數記 高橋仁美 保坂邦雄 川脇誠 橋本次郎 渡辺茂 中村謙一 座間昭子 根岸利昭 手塚貴昭 雨宮佐幸 佐田昇 橋口進 知見寺照子 末木義光 小林光男 整理作業 中村里恵 内藤真千子 栗田かず子 林久美子 望月秀和 望月小枝 鈴木山香 山崎雅恵

第2章 遺跡の立地

第1節 地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

太良峠の南に端を発する相川は、途中上積翠寺町で西沢を、下積翠寺町で東沢をそれぞれ合流し、湯村山及び愛宕山に挟まれた地域に標高差150mあまりの相川扇状地を形成して荒川橋付近で荒川に入る。相川扇状地は概ねJR中央線を境に沖積平野となり、甲府盆地の一角をなす。

相川扇状地の土地利用は中世、武田信虎によって開始される。当時守護大名から戦国大名へと躍進する過程で、永正16年に躑躅が峠の地に居館を置いた。三方を山に囲まれ、相川によって解析された扇状地は甲府盆地を一望でき、軍事的環境は非常に優れたものであった。また二等辺三角形を呈する相川扇状地にあって、開析部に居館をおき扇端部に至るまでの地域をすぐれた規格性をもつ城下町とすることで、政治的基盤の確立を図るとともに、沖積地に広がる耕地を掌握した。

また信虎は扇状地を取り囲むように軍事施設を配置した。要害城(標高780m)、湯村山城(446m)、一条小山の砦(304m)等、一連の軍事拠点を、盆地を見下ろす峰々に矢張り早に築き、戦国大名の本拠にふさわしい「中世都市甲府」の体制ができ上がった。

近世になると城下町は相川扇状地の扇端部に移る。中世に一蓮寺が位置していた標高308m余の一条小山に甲府城を築き、周辺に城下町を形成したが、東側に愛宕山が位置し、西側には相川及び荒川が流れているという地形上の制約のために、近世城下町は甲府城を中心に南東及び北西へと広がりをもつ。

武田氏館跡から2km程の距離で、近世城下町北部と中世城下町南部とは一部重複した位置関係にある。

2. 歴史的環境

武田氏による城下町の建設は、現在のJR中央線にまで及ぶ。そして躑躅が峠近辺に家臣屋敷あるいは館に関連する字名が、また南に下るにしたがって商・職人の居住を示す字名が多く認められることから、すでに身分制に基づく居住区分がある程度実行されていたことがうかがわれる。武士居住地域と商工業者居住地域とは、現在の山梨大学南側あたりに想定されている。

平成元年度から山梨県埋蔵文化財センターにより開始された甲府城跡発掘調査の調査成果は、それまで徳川家康築城の城という通説を覆し、当初から織豊系大名が深くかかわりをもっていたことを証明したとともに、甲府城が豊臣方の拠点として政治的にも軍事的にも重要な城であったことを証明した。そして甲府城下の町づくりも甲府城の起工に合わせるように開始された。

近世甲府の城下町は身分制度を都市構造に反映しており、内堀・二の堀・三の堀およびその外側と、身分による居住地域が定められていた。すなわち二の堀内側は家臣屋敷地とし、三の堀及びその外側を町人町とした。

二の堀内部の家臣屋敷地は、南北に通る複数の街路を基軸とし、方形の区画が整然と整えられていた。町人居住区に連絡する15か所に見付(御門)が配置されたが、日常的な出入り口として利用されたのは五門程度で、他は普段閉鎖されていた模様である。



図1 調査位置と立地

町人の居住区は城の北西と南東とに分かれ、それぞれ上府中26町と下府中23町から構成されていた。上府中の26町は、中世の城下町を継承し、下府中の23町は甲府城築城に伴い新たに建設されたものである。

神社・寺院は三の堀内部及びその周辺部に配置した。北東部に位置する愛宕山裾野に密教系寺院が多く認められるのは、鬼門鎮護を目的としたものであろう。

近世甲府城下は柳沢氏が入甲した宝永元年(1704)以降に全盛期を迎える。吉保・吉里父子は、城内及び城下にとどまらず、現在の甲府市街地全域の再整備に着手し、これにより甲府はかつてないほどの繁栄ぶりを示すのである。

享保9年(1724)、柳沢吉里が大和郡山へ転封になると、甲府は幕府直轄下となり、大手と山手の両勤番支配が設置された。甲府城及び城下の維持・管理は当然のことながら不十分となり、享保12年(1727)、城内から出火した大火により城内の主要な建物及び城下町の大半を焼失、数度の修復計画も実現することなく、明治を迎えることになる。

第2節 調査位置と基本層序

今回の調査は、橋小路と二の堀が交差する、元速雀町見附が置かれていた場所から北東側に位置する。近年は駐車場として、それまでは医院として土地利用されていたため、建物を取り壊した際の瓦礫による擾乱が随所に認められた。また駐車場整備段階でのアスファルト舗装が一面に施されていた。

アスファルト舗装面以下、砕石を0.15~0.20m敷き詰め、その下が旧表土になる。旧表土は概ね0.20~0.40mで地山（黄褐色及び暗緑色混合土層）に至る。擾乱は深い所で-2.0mを測り、炭化木材及び瓦礫が含まれ、建物解体後焼却して埋めた状況を示している。地山までの深さは、1区北部で約0.5m、2区で0.7~0.8mを測る。

第3章 調査成果

第1節 1区の調査成果

1. 遺構概要

1区からは溝跡8本、土坑11基、井戸跡1基をはじめ礎石及び小豎穴(ピット)が検出された。8本の溝跡のうち7号溝跡は上部に礎を伴い暗渠と思われる。また11基の土坑のうち4号土坑については墓壙である。

2. 遺構と遺物

(1) 溝 跡 (図3・4)

8本確認された。全体として、東西方向に主軸をもつものが5本、南北方向に主軸をもつものが2本、そして屈曲するものが1本である。

1号溝跡 F11～H11グリッドにかけて位置する。N-74°-Wに主軸をもった底面形が「U」字状の溝である。深さ1m、上部の幅3mを測り、東から西に若干傾斜している。東端部は1号井戸により、西端部では11号土坑によって切られ、さらに7号溝が横断する。また北壁の一部が近年の搅乱により破壊されている。溝の北斜面から柱穴3基が確認されたが、溝跡との関係は不明である。

2号溝跡 E10～F10グリッドにかけて位置する。N-71°-Wに主軸を持つ。深さ0.4m、上部の幅0.5mを測る。4号溝跡により切られている。

3号溝跡 E9～F9グリッドに位置し、西端を搅乱により破壊されている。N-70°-Wに主軸をもつ。深さ0.4m、最大幅2.1mを測る。中央部を4号溝跡によって切られている。

4号溝跡 F11グリッドからF7グリッドまで南進(S-31°-W)し、そこで西に向かい(N-89°-W)H7グリッドにいたる。切り合い関係から、本調査区の中で7号溝跡に次いで新しいことがわかる。

5号溝跡 E8～F8グリッドに位置する。N-73°-Wに主軸を持ち、幅2.5m、深さは最深部で0.7mを測る。F8グリッド内で4号溝跡によって切られており、また9号土坑によっても切られている。

6号溝跡 E8～G8グリッドに至る幅0.4mほどの溝跡である。N-74°-Wに主軸をもち、F8グリッドから西は5号溝跡に重複しながら並行する。3区から検出された2号溝跡に続くものと想定される。

7号溝跡 調査区全体を南北に縱断する形で検出された、石組を伴う溝跡である。S-16°-Wに主軸をもち、調査区の中で最も新しい。石は自然石を用い、その下部に丸太材を伴う。形は箱壙状で、近世の暗渠あるいは屋敷境の溝である可能性が高い。深さ0.2m、幅は最大で0.8mを測る。

8号溝跡 G5～G6グリッドに位置する。7号溝に平行するように作られ、北側は搅乱により破壊されている。主軸の方向はS-17°-Wで、掘り込みも浅く、不明瞭な溝跡である。

(2) 土 坑 (図5)

11基検出された。技法的にはいずれも素掘りであるが、上部に自然石を伴うもの、底部に板材を伴うもの、丸太材を伴うものがあり、墓壙等、様々な用途が推定される。G10グリッドに集中して検出された。

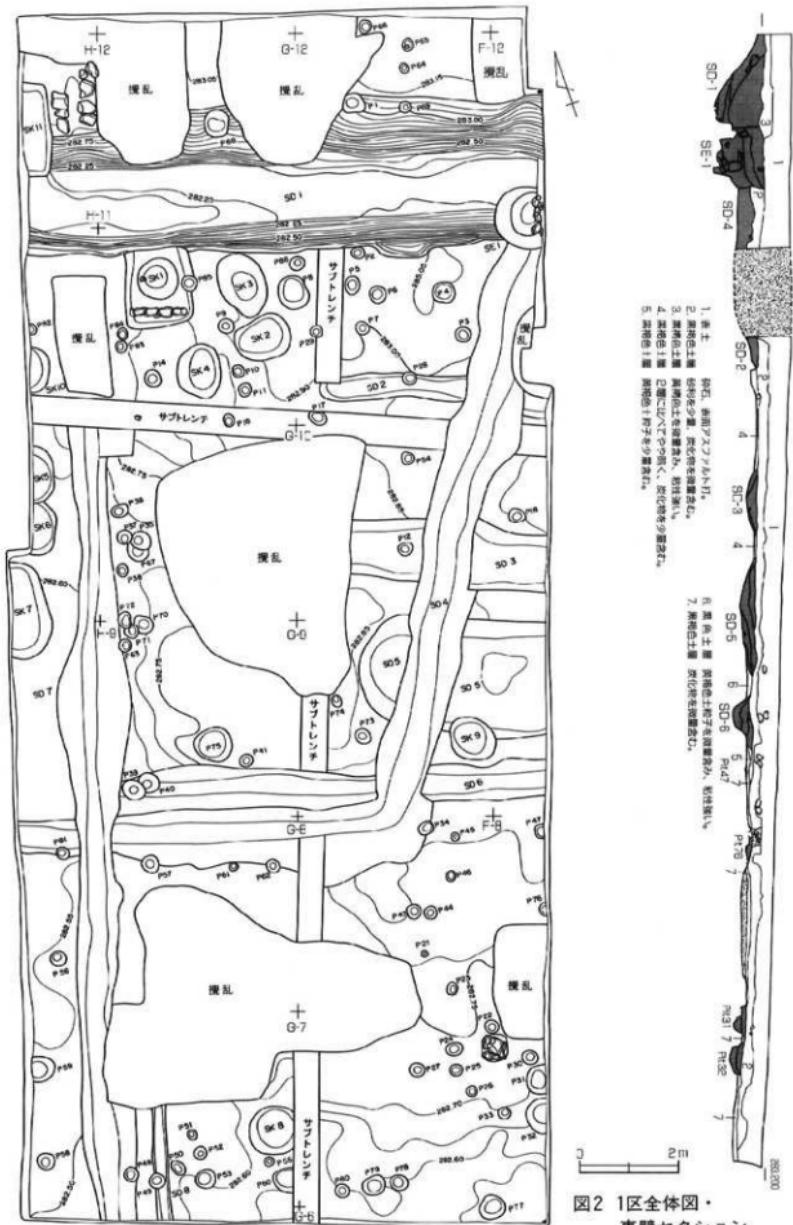


図2 1区全体図・
東壁セクション

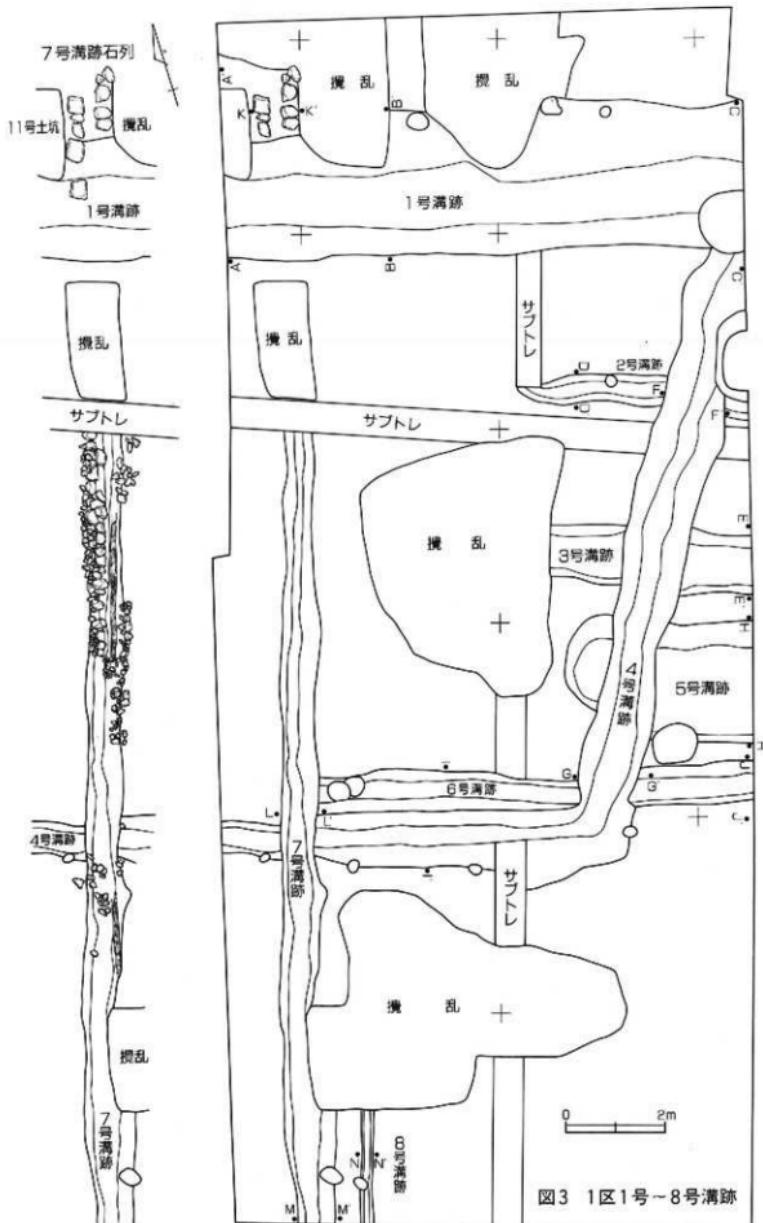
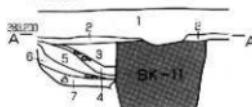


図3 1区1号～8号溝跡

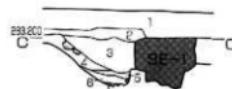
1号溝跡



1. 黒土
 2. 黑褐色土層
 3. 黄褐色土層
 4. 黄色土層
 5. 灰褐色土層
 6. 黑色土層
 7. 黑色肥土層
- 伴石、表面アスファルト打。



1. 黃褐色土層
 2. 黑灰褐色土層
 3. 黑褐色土層
 4. 黄褐色土層
 5. 黄褐色土層
 6. 黄褐色土層
 7. 黄褐色土層
 8. 黑灰褐色土層
 9. 黑褐色土層
 10. 黄褐色土層
 11. 黄褐色土層
 12. 黄褐色土層
 13. 黄褐色砂質土層
- 砂利・粘土を多量含む。しりりやや細い。
灰褐色土層を多量含む。
灰褐色土層を多量含む。
灰褐色土層を多量含む。
灰褐色土層を多量含む。筋状の玉立。
灰褐色土層を多量含む。筋状の玉立。



1. 黒土
 2. 黑褐色アスファルト打。
 3. 黑褐色土層
 4. 黄褐色土層
 5. 黑灰褐色土層
 6. 黑褐色沙質土層
 7. 黄褐色砂質土層
- 砂利・粘土を多量含む。
小便・汗を多量含む。灰褐色土層を多量含む。
小便・灰褐色土層を多量含む。
小便・灰褐色土層を多量含む。
灰褐色土層を多量含む。筋状の玉立。
小便・汗を多量含む。筋状の玉立。
小便・汗を多量含む。筋状の玉立。

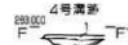
2号溝跡



3号溝跡



1. 黒土
 2. 黑褐色土層
 3. 黑褐色土層
 4. 黑褐色土層
- 砂利・表面アスファルト打。



1. 黄褐色土層
2. 黑褐色土層+黄褐色粘土層
3. 黄褐色土層



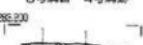
1. 黄褐色土層
 2. 黑褐色土層
 3. 黑褐色土層
- 灰褐色土層を少量含む。
灰褐色土層を少量含む。
灰褐色土層を少量含む。

5号溝跡



1. 黒土
 2. 黑褐色土層
 3. 黑褐色土層
 4. 黄褐色土層
 5. 黄褐色土層
 6. 黄褐色土層
 7. 黑褐色土層
- 砂利・表面アスファルト打。

6号溝跡・4号溝跡



1. 黄褐色土層
2. 黑褐色土層
3. 黄褐色土層

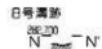


1. 黒土
 2. 黑褐色土層
 3. 黑褐色土層
 4. 黄褐色土層
 5. 黄褐色土層
- 砂利・表面アスファルト打。

7号溝跡



1. 黄褐色土層
2. 黑褐色土層



0 2m

図4 1区1号～8号溝跡セクション

1号土坑 G10グリッドに位置する。北側を1号溝跡に切られている。確認面では方形を呈し、その内部で円形の掘り込みになる。人頭大の自然石は、円形の掘り込みを囲うか若しくは上部を覆っていたものと考えられる。現存部分で長軸1.50m、短軸1.40m、円形の掘り込みは直径0.8m、深さ0.88mの規模である。

2号土坑 G10グリッドに位置する。長軸1.12m、短軸0.91mの楕円形のプランを呈し、深さは0.13mを測る。

3号土坑 G10グリッドに位置する。長軸1.41m、短軸0.92mの楕円形のプランを呈し、深さ0.5mを測る。

4号土坑 G10グリッドに位置する。長軸1.10m、短軸0.86mの不整円形のプランを呈し、深さは0.38mを測る。上部に自然礫を充填し、下部には六文銭等、副葬品を伴った人骨が出土した。

人骨は屈葬され、頭部を北に、顔は西側に向いていた。

5号土坑 H9グリッドに位置する。調査区外に統いているが、検出された最長部分で、長さ1.11m、深さ0.68mを測る。内部から焼けた丸太が、底面から0.5~0.7mの位置で集中して検出された。

6号土坑 5号土坑の南に隣接して検出された。西半分は調査区外に統いている。最長部分で1.60m、深さ1.00mを測る。底部は円筒形の側板及び底板が確認でき、桶状のものを埋設した施設であるが、性格は不明である。

7号土坑 6号土坑の南側、H9グリッドに位置する。西半分は調査区外に統く。長軸1.92mの不整方形を呈する。上部は搅乱され、検出された深さは0.09mほどである。

8号土坑 G6グリッドに位置する。最大径1.03mの円形を呈し、深さは0.58mを測る。内部には近世以降の瓦が充填されていて、廃棄したものと思われる。瓦を取り除くと、礫及び焼けた木片が検出できたが、加工の痕跡はなかった。

9号土坑 F8グリッドに位置する。5号溝跡を切っている。長軸0.94m、短軸0.81mの不整円形のプランを呈し、人頭大の礫数個が上に置かれていた。掘り込みは最深部分で0.12mと浅く、下部構造はなかった。

10号土坑 5号土坑の北側に検出された。西半分は調査区外にかかるため規模は不明だが、残存部分で長軸1.00m、深さ0.33mを測る。底部には板材及び丸太材が確認できた。

11号土坑 H11グリッド中に位置する。西側は調査区外にかかるため、長軸が1.86mの長方形のプランを呈する。南端部で1号溝跡を切る。

西壁の土層図では中央部に人頭大の礫が円形に集中しており、何らかの構造物あるいは他の遺構が存在していた状況を示している。

(3) 井戸跡(図6)

1号井戸跡 F11グリッドに位置する。東半分が調査区外に達しているが、検出範囲で最大径1.12mを測る。1号溝跡を切っている。主体部は0.7mの素掘りで、内部には礫を投げ込み廃棄している。上部構造は碎石が盛られているため確認できなかった。

(4) 碓石(図7)・ピット

礎石跡は、1号溝跡検出以前の段階で7か所から検出された。このうち5号及び6号以外のものについては、すでに礎石は抜かれていたと思われ、根石のみの検出である。1号溝跡をはじめ他の遺構の上部に構築されていることなどから考えると、近代以降の所産と考えるのが妥当であろう。

ピットは、「1区ピット観察表」参照。

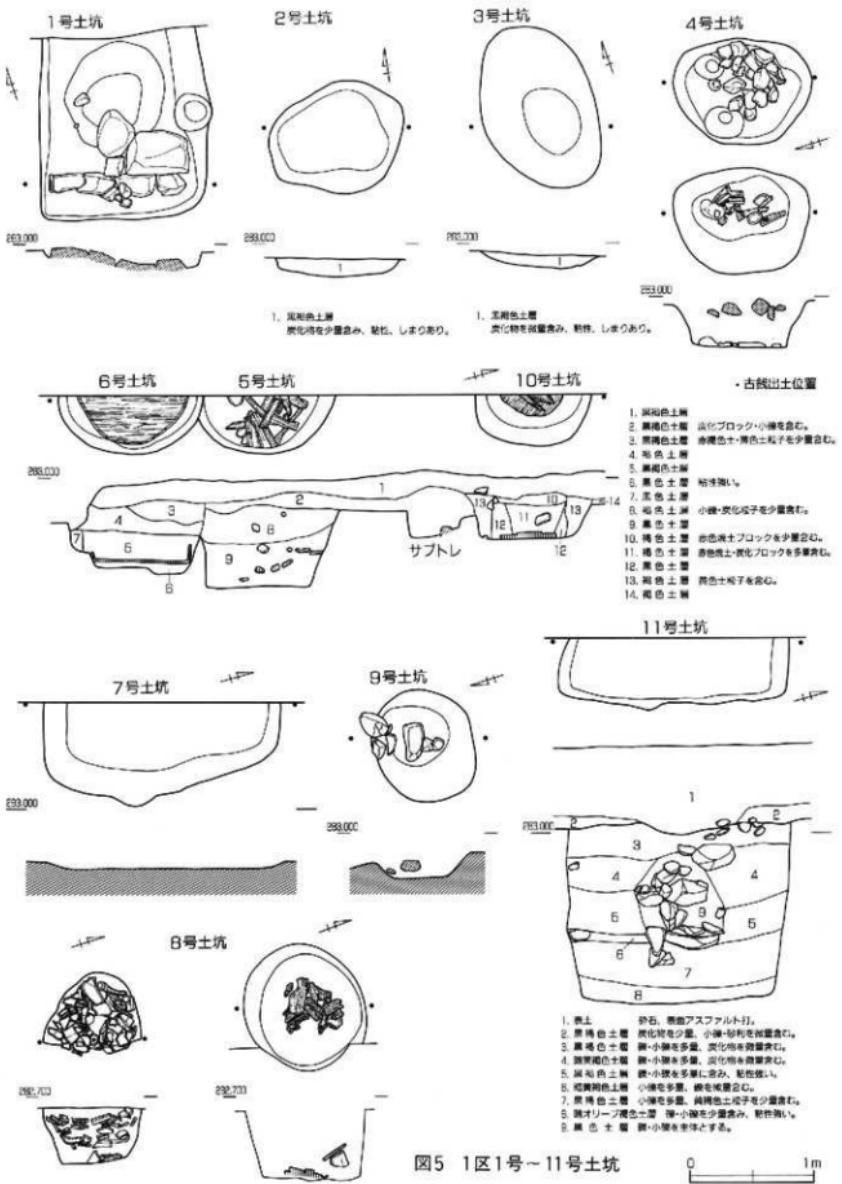


図5 1区1号～11号土坑

- 9 -

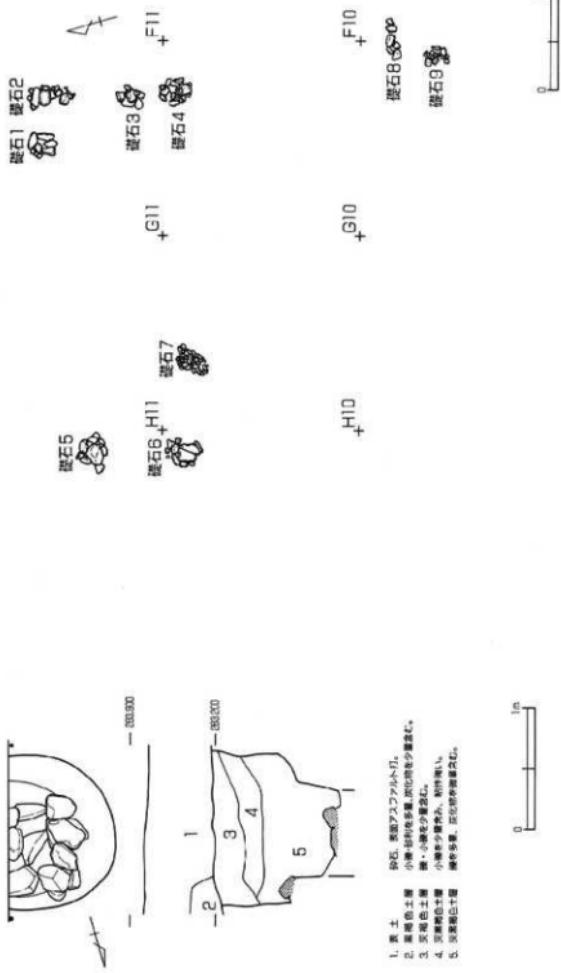


図6 1区1号井戸跡

図7 1区 墓石

(5) 遺物 (図8~12)

1区では、中世から近代に及ぶ遺物が出土している。中世遺物は、1・4・5号溝跡、及び2・4号土坑から主に検出されている。13世紀代の遺物も確認されているが、16世紀代が主体となる。かわらけ、土製の三脚付香炉、瀬戸美濃系天目茶碗・丸皿・擂鉢、志戸呂の擂鉢、常滑の甕、輸入陶磁器としては中国龍泉窯の青磁酒会壺・盤、白磁皿、染付碗・皿が見られる。近世遺物は、3・7号溝跡、6・8・11号土坑、1号井戸跡から検出された。在地系と考えられる焰烙鍋・内耳鍋、瀬戸製陶器及び磁器、肥前系磁器があり、18世紀以降に比定される。

1~13は1号溝跡の出土遺物であり、16世紀代に比定される。1~3のかわらけは、いずれも口径11cm前後を測る。4・5は瀬戸美濃系丸皿と内堀皿であり、16世紀中葉に比定される。6は信楽の壺頭部であり、胎土内に長石粒を多量に含む。7~9は中国製の磁器であり、7は白磁皿、8・9は染付皿である。3点とも15~16世紀にかけての所産である。10・11・13は瀬戸美濃系擂鉢であり、10・13は16世紀代前半に、11は16世紀代後半に比定される。12は志戸呂の擂鉢であり、16世紀後半に位置する。

14は2号溝跡出土の在地系と考えられる焰烙鍋、15は3号溝跡検出の瀬戸製擂鉢である。いずれも近世遺物である。16は16世紀代のかわらけであり、4号溝跡から出土した。

17~22は5号溝跡から検出した中世遺物である。17~19のかわらけは16世紀代に比定される。特に19は内面から口縁部にかけて炭化物の付着が見られ、灯明皿として使用されていたものと推定される。20は16世紀前半の瀬戸美濃系丸皿と考えられる。21は中国龍泉窯の酒会壺である。22は常滑の甕頭部であるが、時期等は不明である。

23~29は7号溝跡出土遺物であり、いずれも18~19世紀に比定される。23は武田菱紋の軒桟瓦の一部であり、24は軒丸瓦である。25は陶器の碗であるが産地は不明である。27は広東碗の蓋、28は筒茶碗であり、いずれも18~19世紀の肥前系磁器である。29は陶器の碗である。

30~32は1号土坑から出土している。30は緑釉の皿である。31は16世紀末の志戸呂の擂鉢である。32の碗蓋は瀬戸製の磁器であり、近代に位置づけられる。

33は中国龍泉窯の青磁盤である。34はかわらけ、35は上製の三脚付香炉であり、16世紀に比定される。36の碗は器面に細かい貫入が見られる。37は碗の蓋であり、両碗ともに19世紀の瀬戸製陶器である。

38~41は11号土坑の出土遺物である。38の瀬戸美濃系天目茶碗は、16世紀前半に位置づけられる。39は肥前系磁器の染付丸碗、40・41は瀬戸産陶器の折線鉢と擂鉢であり、18世紀以降の遺物である。

42~44は1号井戸跡から出土した近世遺物である。42は雨降り文の肥前系の染付碗、43の碗の産地は不明である。44は瀬戸製陶器の壺であり、頸部に枝葉状の耳環が付き、花器として使用されていたものと考えられる。

45はピット37から検出された瀬戸美濃系の鉄釉茶入であり、下部が欠損しているが薬壺型であったものと推定される。46は、19世紀に比定される三釉の土瓶蓋である。47~56は、8号土坑から出土した近世末から近代にかけての瓦である。

1区の一括資料は57~75である。中世遺物は57のかわらけと、67の中国製の白磁皿である。その他は18世紀の遺物も見られるが、19世紀代が主体となる。66は18世紀の尾呂茶碗である。71の肥前系磁器は八角鉢であり、焼難ぎの痕跡が窺える。72~75は金属製品である。72は寛永通宝の四文銭である。73・74の銅銭は摩耗のため文字の判読が困難ではあるが、中国の北宋銭と推定される。75のキセルは、18世紀以降に比定される。

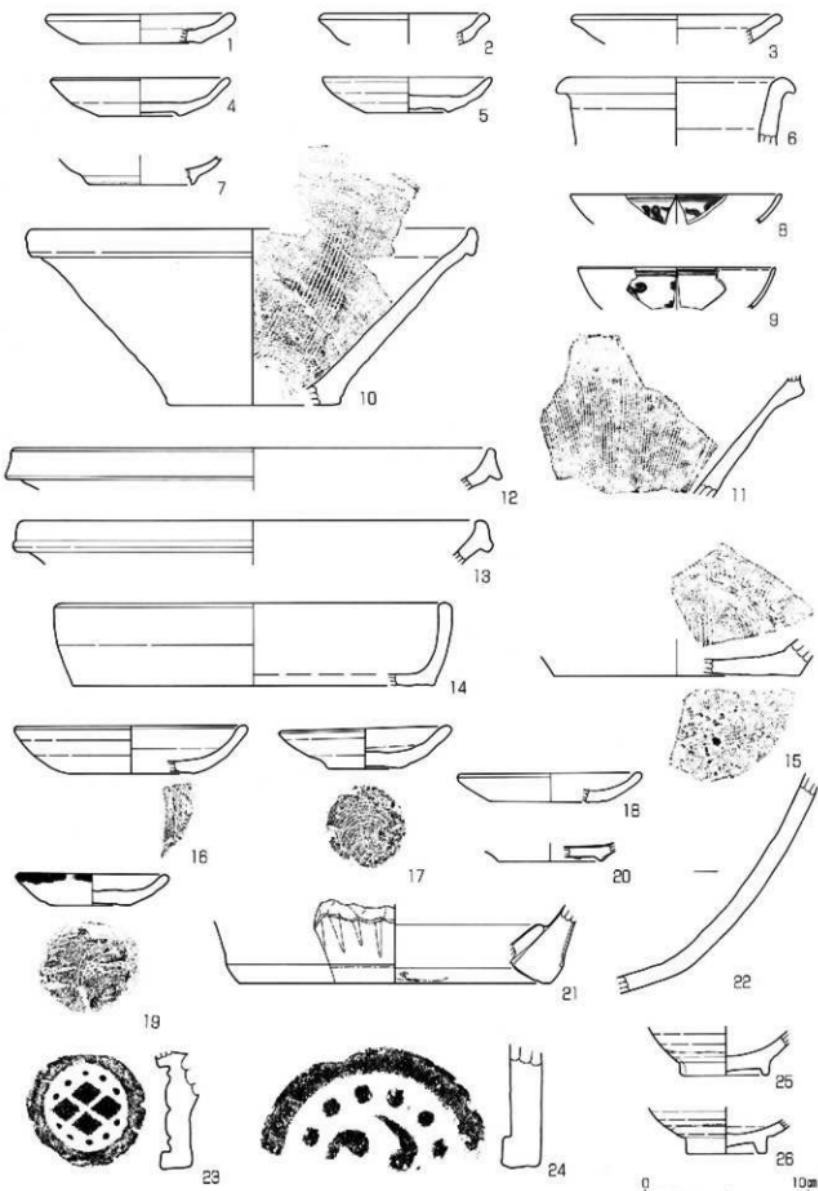


図8 1区1号～5号、7号(1)溝跡出土遺物

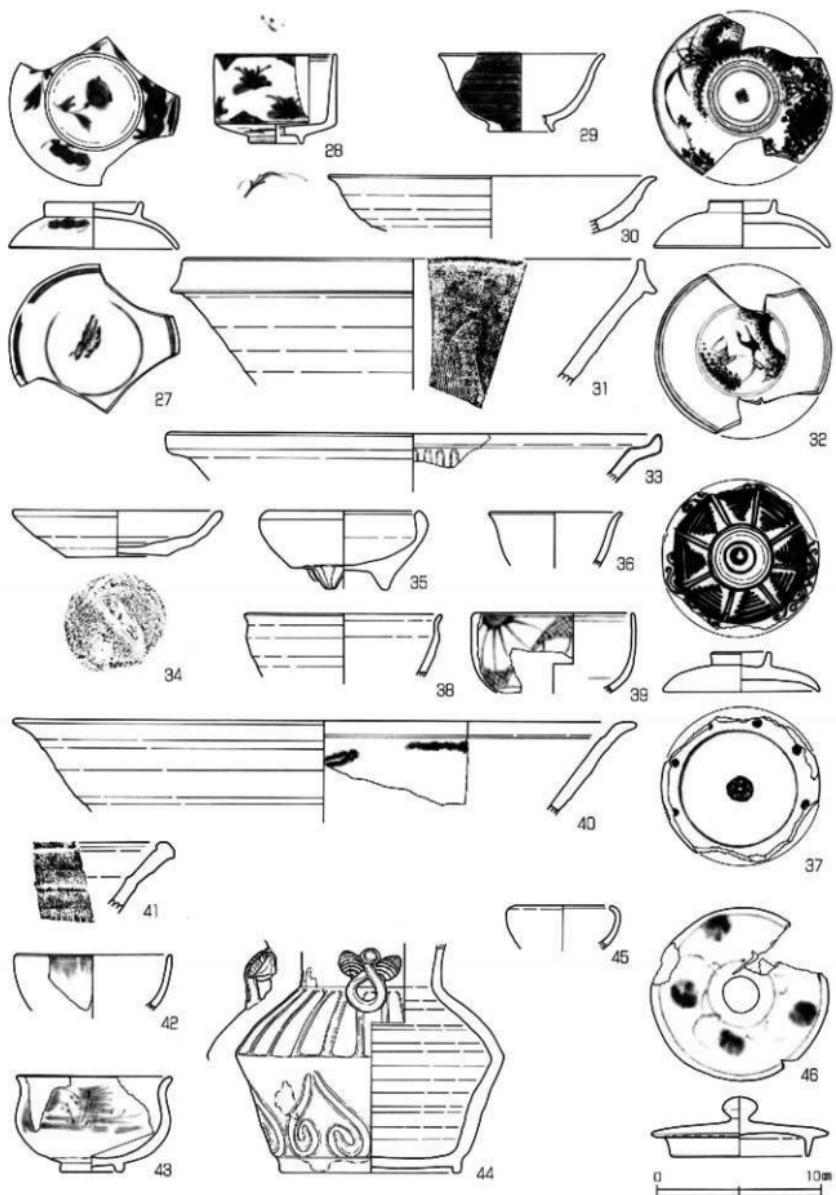


図9 1区7号溝跡(2)、1号・2号、4号～6号、11号土坑、1号井戸跡、ピット等出土遺物

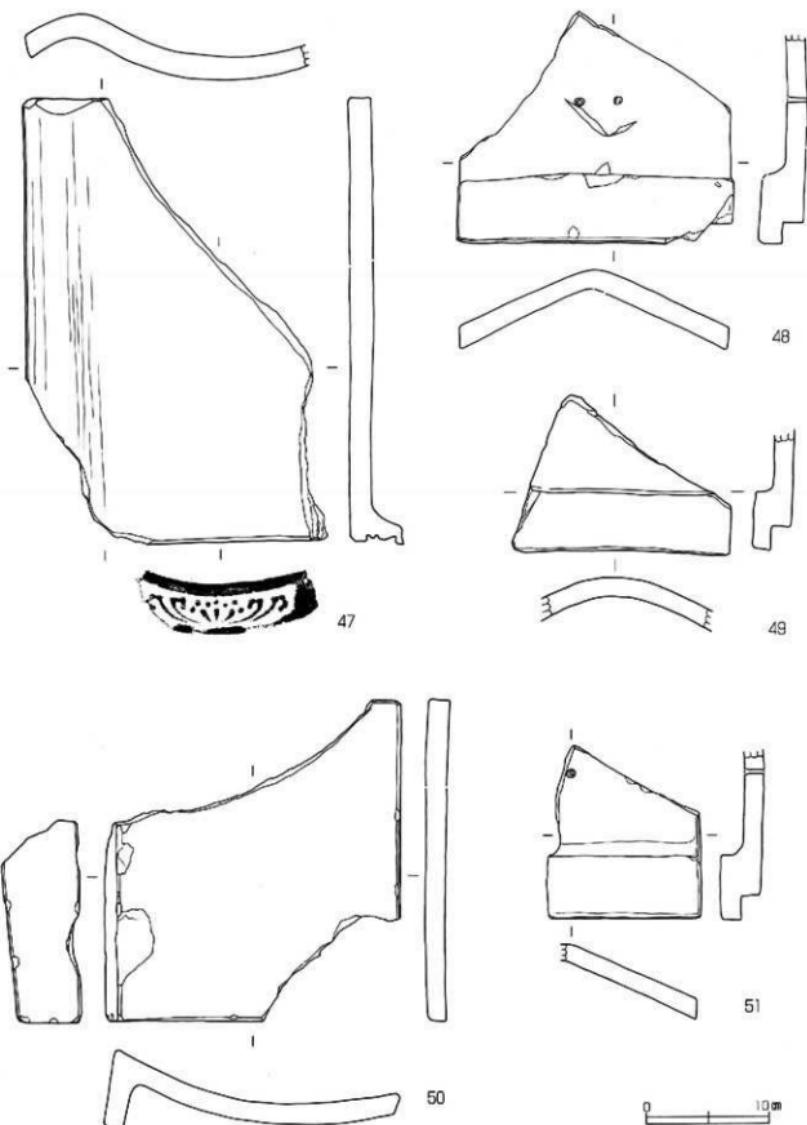


図10 1区8号土坑出土遺物(1)

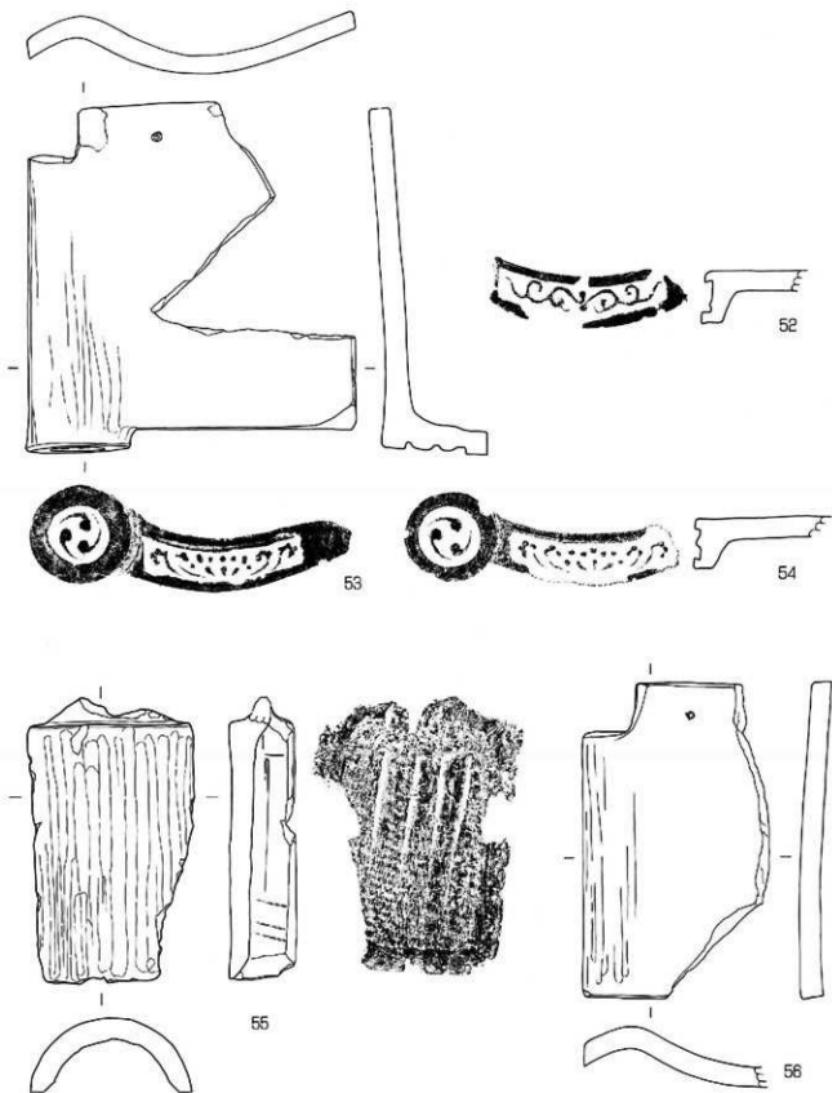


图11 1区8号土坑出土遗物(2)

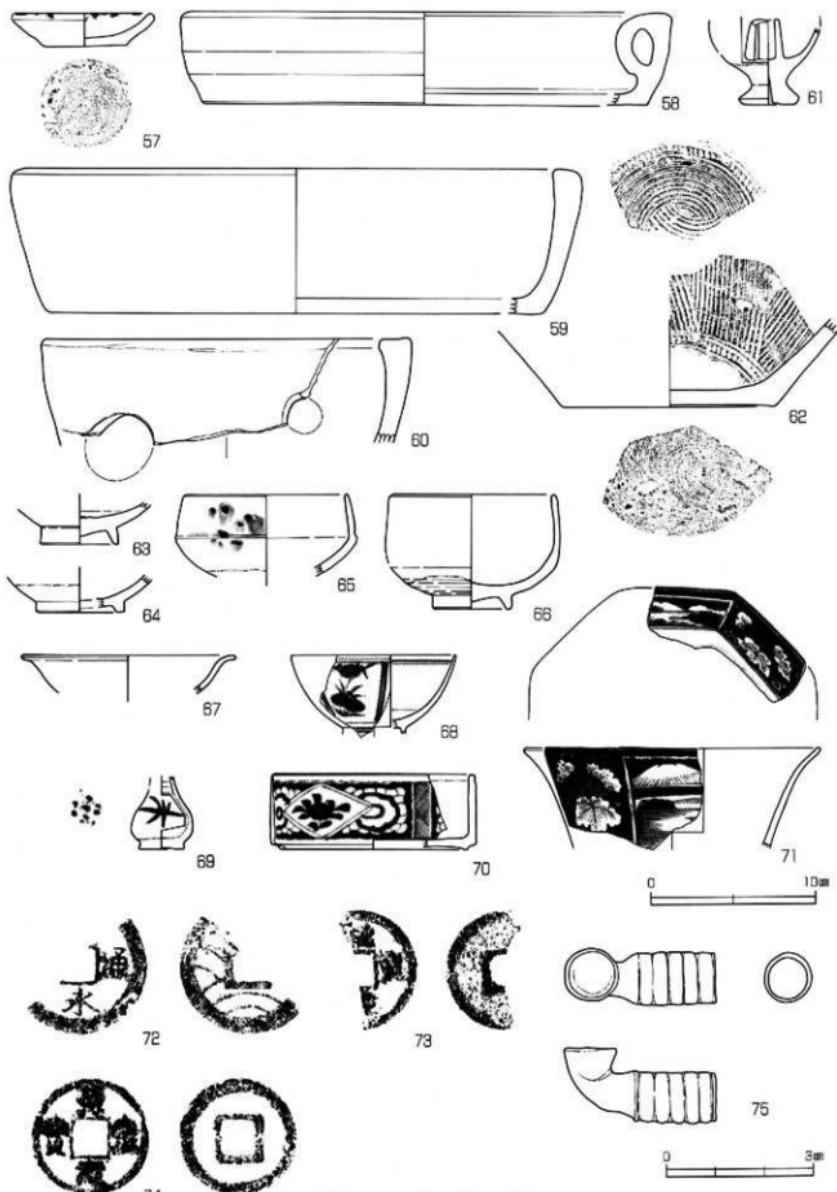


図12 1区調査区内出土遺物

第2節 2区の調査成果

1. 遺構概要

2区からは方形の柱穴列及び溝跡4条、土坑2基、井戸跡2基が検出されている。

2. 遺構と遺物

(1) 建物跡 (図14)

1号建物跡 2区東側全面に、一片が $0.65\sim0.70\text{m}$ の方形の掘り込みが検出でき、これを1号建物跡とした。南北7間・東西5間におよぶこの掘り込みは、それぞれの柱穴間(芯~芯)が 1.80m で、さらに南北及び東へ延びる可能性を示す。

東西に続く柱穴列の南端の一列は他の柱穴列とは異なり、内部に礎石を充填している(ピット99・37)。また、ピット89・117は南北方向の軸線と異なる。

ピット99・64の西隣に検出された二つの石は、上面が平らな方形の石で、形状からして礎石であろうが、柱穴列との関係は不明である。

(2) 溝 跡 (図15)

1号溝跡 B4～C3グリッドにかけて位置する。S-80°-Eに主軸をもつ、幅 0.4m 、深さ 0.10m の溝で、検出した長さは 4.98m を測る。1号建物跡構築以前に作られたものと思われる。

2号溝跡 B1～B4グリッドにかけて位置する。S-20°-Wに主軸をもつ。幅 0.42m 、B4グリッド中では 0.22m と若干細くなる。途中B3グリッド中で幅が広がるのは、ピット102の掘り込みと重複しているためである。

3号溝跡 C3グリッドに位置する。S-26°-Eに主軸をもち、2号溝跡に平行するよう作られている。検出部分で 1.2m 程で、中央をピット14により切られている。

4号溝跡 D4～D1グリッドに位置する。S-16°-Wに主軸をもち、上部構造として石列及び胴木を作り。石はいずれも人頭大前後の自然石で、平坦面を内部に向けて整然と積んでいた。この石列は3区でも確認することができる(3区SD2)。近代以降の屋敷境界を意味するものと思われる。

5号溝跡 E4グリッド中に位置する。東端をピット68に切られ、西端は2号井戸に切られる。検出部分で長さ 1.0m 、最大幅 0.4m を測る。

(3) 土 坑 (図16)

1号土坑 E2～E3グリッドに位置する。北西側 $1/3$ 程が擾乱されている。検出部分で長軸 4.55m 、短軸 3.29m 、最深部で 0.60m を測る、不整方形の土坑である。南西側に木製品が検出された。

2号土坑 C3～D3グリッドに位置する、不整方形の土坑である。長軸 2.18m 、短軸 1.01m 、深さ 0.58m を測る。内部には、板材による構築物が認められる。幅 19cm 、長さ 80cm 程の板材を底部中央やや東より2枚横たわせ、内部を仕切るかのようにやはり板材を縦に入れたものである。ピット44と重複関係にあるが、建物跡に伴うものかどうかは不明である。

(4) 井戸跡 (図17)

1号井戸跡 B2グリッドに位置する。直径 1.1m ほどの円形を呈し、石積を施す。内部から瓦礫等が出土したため、近代以降の井戸と思われる。

2号井戸跡 E4グリッドに位置する。南半分が擾乱されているため、全体の規模は不明だが、残存部分で直径 3m ほどの円形を呈する。主体部の直径は 1.1m 、深さ 2.11m まで検出した。内部には礫が投げ込まれており、使用後破棄されたものと思われる。

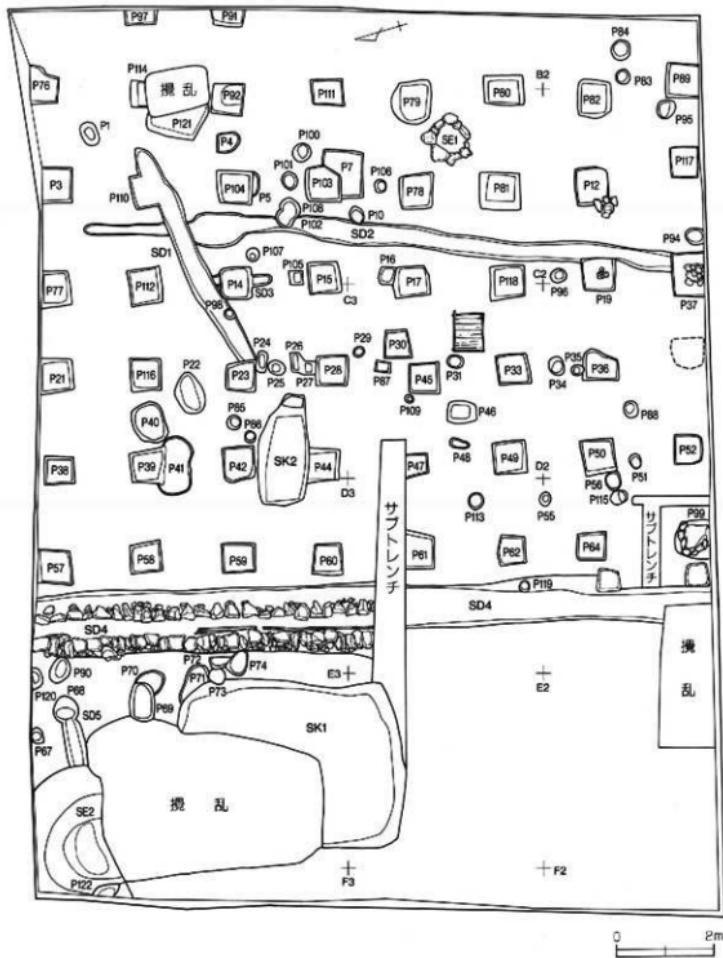


図13 2区全体図

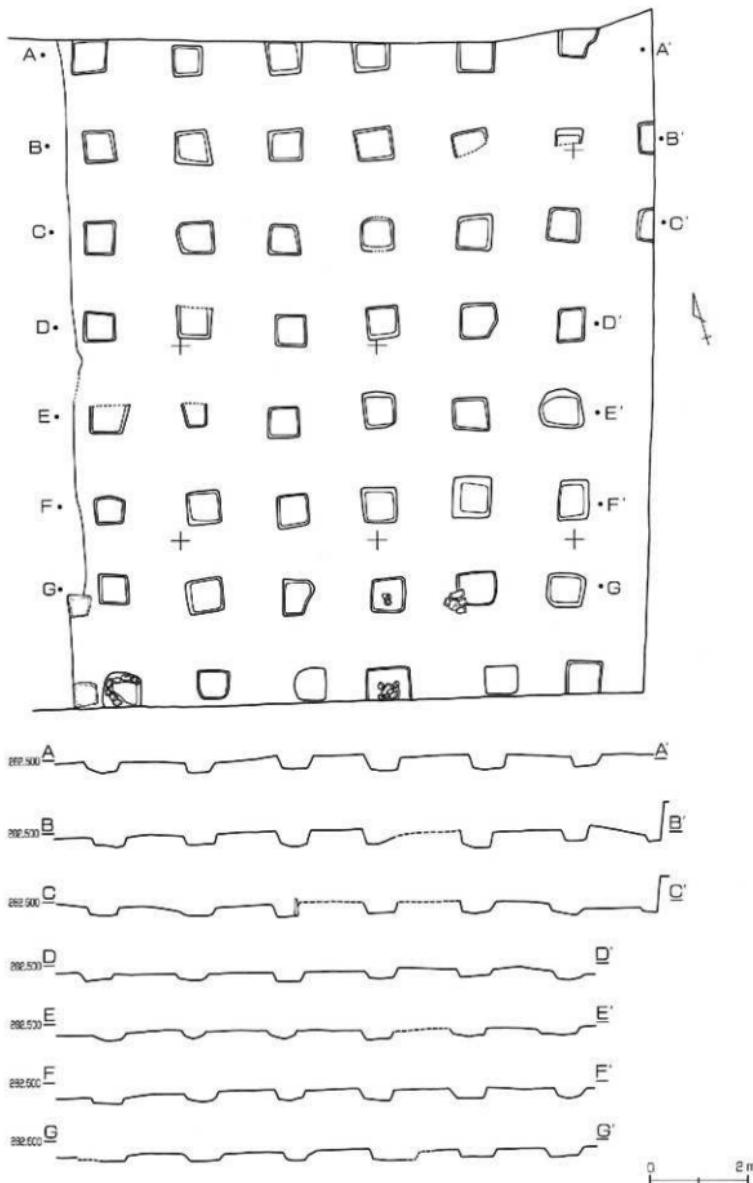


図14 2区1号建物跡

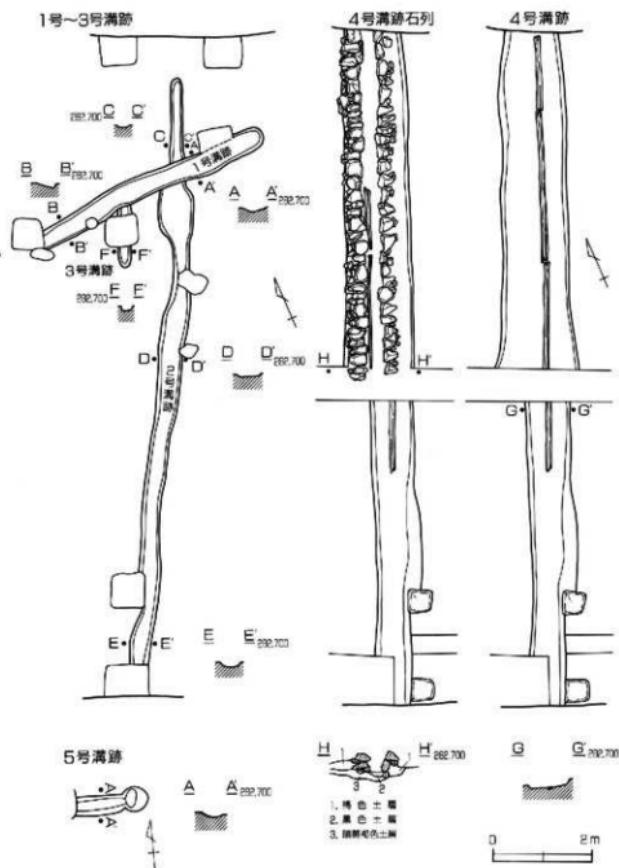
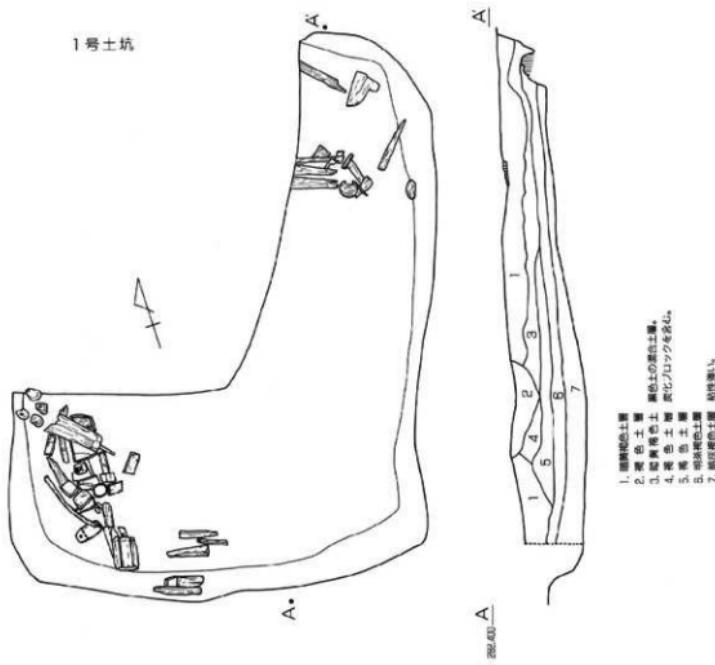


図15 2区1号～5号溝跡

1号土坑



2号土坑

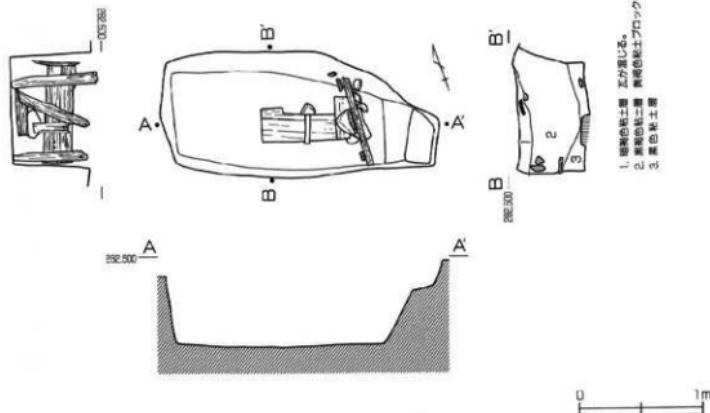


図 16 2区1号・2号土坑

(5) ピット

「2区ピット観察表」参照。

(6) 遺物 (図18~21)

中世から近代に及ぶ遺物が出土している。中世遺物は、1号建物跡のピット12、及び1号土坑から検出されている。16世紀代の遺物が主体であり、かわらけ、瀬戸美濃系天目茶碗・丸皿、輸入磁器としては中国製の白磁皿と染付皿が見られる。近世遺物は、1号土坑から多数検出され、特に木製品の出土が顕著である。ほぼ1区出土の遺物と類似する器種構成であり、主に18世紀以降に比定される。近代遺物は、2号土坑から出土している。

76~78は1号建物跡のピットから検出されている。ピット12から出土した76のかわらけ及び77の中国製磁器染付皿は、16世紀代に比定される。78はピット44から出土した肥前系磁器の碗であり、19世紀代と考えられる。

79~96は1号土坑から出土している。79は16世紀前半の瀬戸美濃系丸皿であるが、80以降は近世に位置づけられる。81はたこ唐草模様の仏壇器、82は蛇の目四形高台を有する皿であり、いずれも18~19世紀に位置づけられる肥前系磁器である。

83の砥石は、各面に使用痕が確認できる。

84~95は木製品である。84・85は用途不明である。86はクサビ状を呈し、削痕が確認できる。87の下駄は、板材にはぞを穿ち下駄歯が組み込まれている。88は角箸と考えられる。89は人形の顔面部分であり、眉・眼珠・口許は墨で描かれている。90の桶の側板には、3条の縦の痕跡が見える。また蓋部分には判読不明ではあるが、焼き印が見られる。91・92は曲物のへぎ板であり、92の外側には、部分的に黒漆の付着が見られる。93は曲物の底板であり、一部には黒漆が付着している。94・95の器種については不明である。96の竹材は片方を鋭角に削っているが、用途については不明である。

97・98は2号土坑から出土した、昭和初期~終戦時にかけての磁器である。97は赤絵の旭日旗が描かれている。98は銅版転写によるコバルトの染付であり、高台内に『瀬』と数字で『323』と記載されている。2号井戸跡から出土した99の片口鍋は、外面に炭化物の付着が確認される。100はピット40から出土した鉄釉の灯明受皿、101の硯はピット96から出土している。

102~122は、2区の一括出土遺物である。中世遺物としては、110の16世紀後半に比定される瀬戸美濃系天目茶碗と、113の中国製染付皿である。ほかは近世遺物であり、その多くは18~19世紀に位置づけられる。102はロクロ成形による土製の火鉢と考えられ、内部に炭化物の付着が確認される。103・104は在地産と考えられる素焼きの甕である。特に103の内面には石灰状の付着物が多く確認されており、便所甕として使用されていた可能性がある。

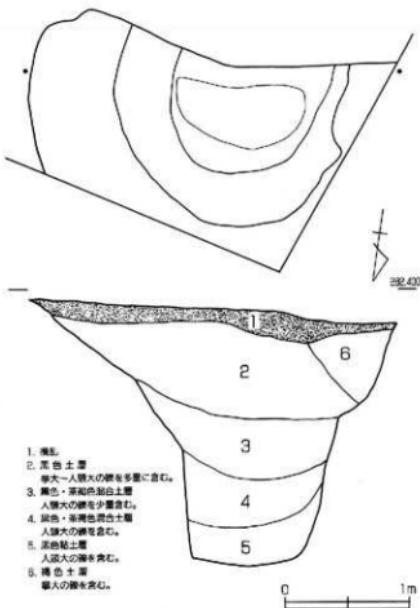


図17 2区2号井戸跡

105は土瓶の蓋、106は小杯、107は瀬戸産の碗である。108・109は鉄釉の灯明受皿である。111は素焼きの灯明具と考えられ、上部2か所の孔には、銅線が通されている。112は素焼きの磁器である。

114は18～19世紀の肥前系磁器の皿であり、蛇の目凹形高台を有し、焼継ぎの痕跡が窺える。115は瀬戸製磁器の碗であり、19世紀に比定される。116の碗と117の簡茶碗は、肥前系磁器である。116の見込み部には、手描きの五弁花文がある。118は瀬戸製磁器の碗蓋、119・120は肥前系磁器の碗蓋であり、いずれも18世紀末から19世紀に位置づけられる。121の肥前系磁器の蓋には、「大明成化年製」の記名があり、焼継ぎの痕跡が窺える。大型の蓋であることから、食籠の蓋であると考えられる。122は近代の茶碗であり、銅版転写によるものである。123は1号建物跡のピット15から出土した銅製のキセルであり、近世後半に位置づけられる。

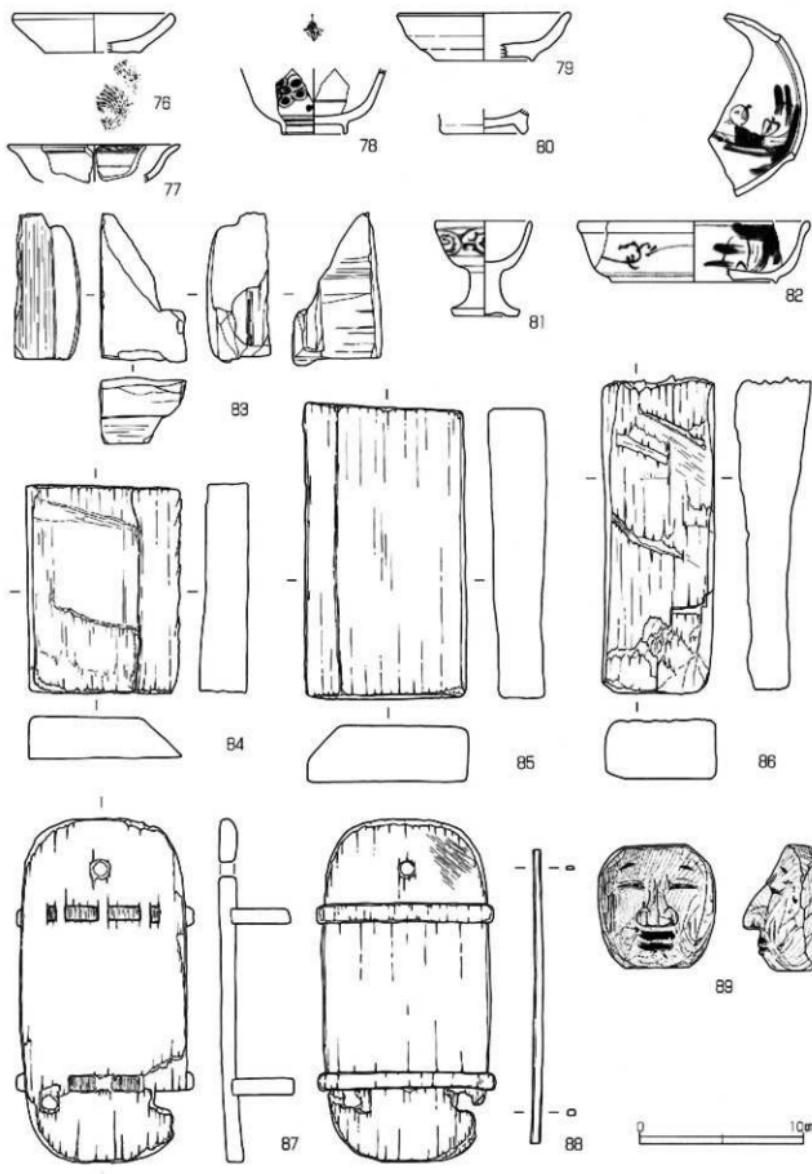


図18 2区1号建物跡、1号土坑(1)出土遺物

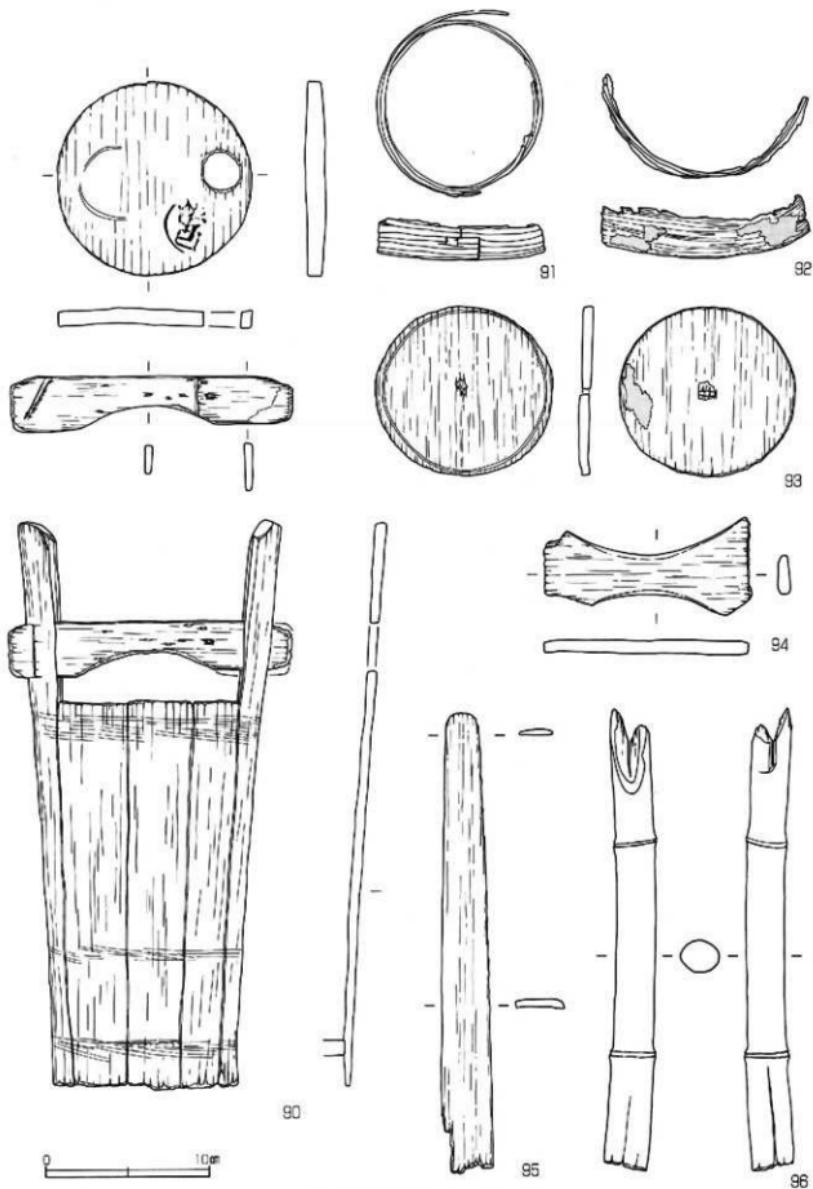


図19 2区1号土坑出土遺物(2)

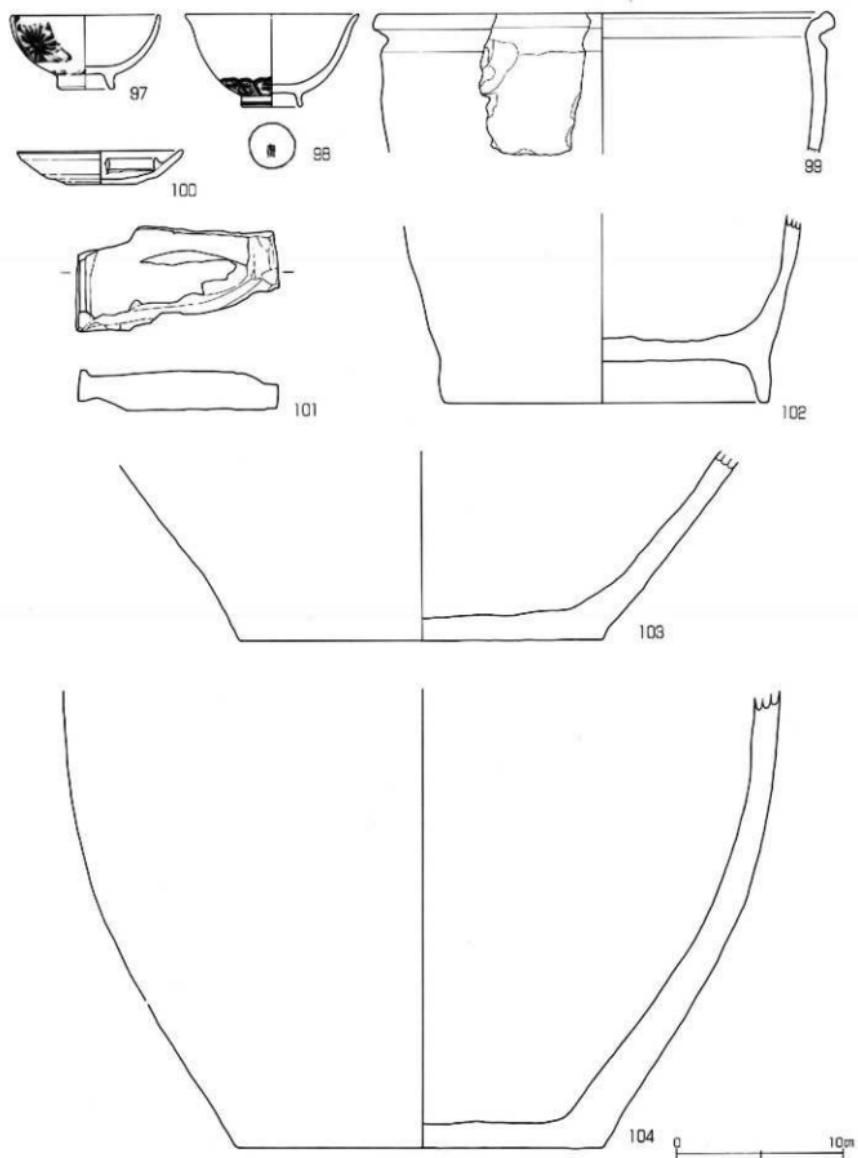


図20 2区2号土坑、2号井戸跡、ピット、調査区内出土遺物

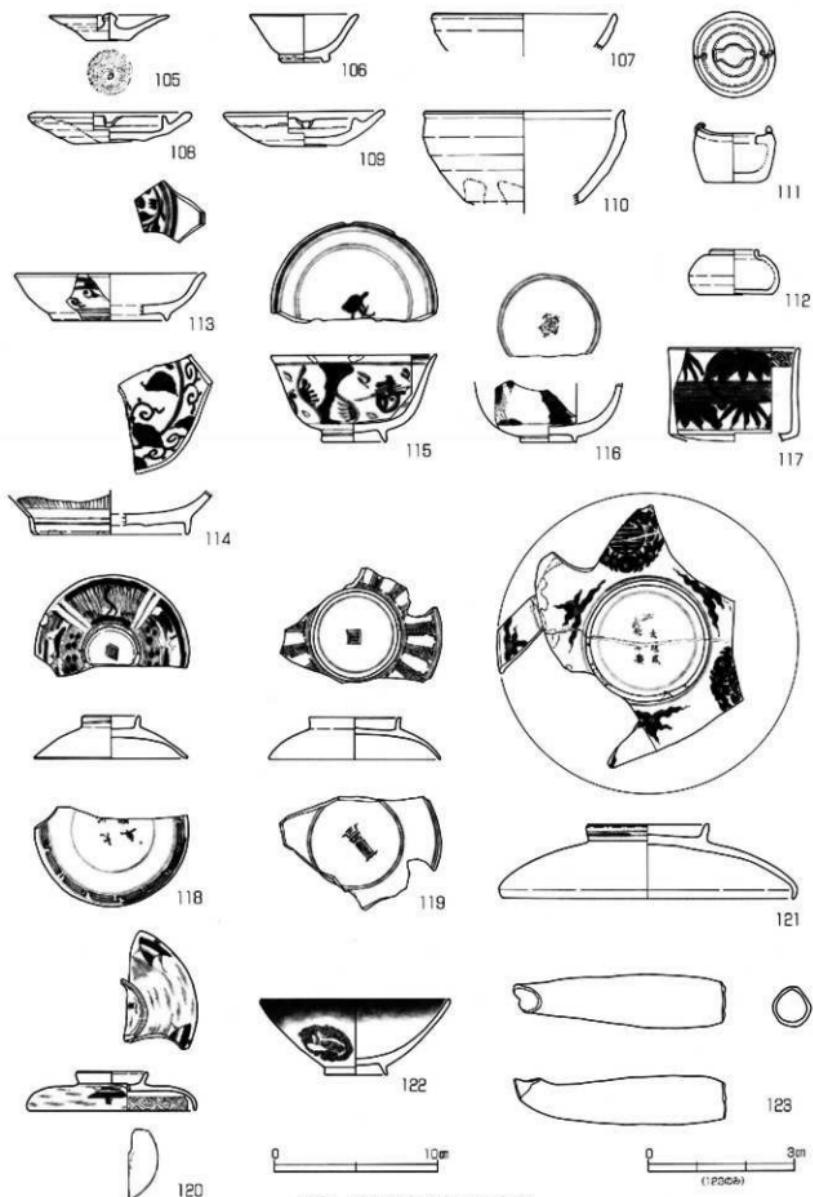


図21 2区調査区内出土遺物

第3節 3区の調査成果

1. 造構概要

立体駐車場建設部分を3区とした。長軸14.3m、短軸4.0mの長方形の調査区である。溝跡4条、土坑6基、井戸跡1基、小豎穴(ピット)7基が確認できた。

2. 造構と遺物

(1) 溝 跡 (図23・24)

1号溝跡 3区の中央を南北に横切る形で検出された。S-5°-Eに主軸をもつ。検出部分で長さ4.10m、幅0.13m、内部には竹による樋が入れてあり、南端部近くには樋を連結させたと思われる丸太材が確認できた。碎石の客土層から掘り込まれているため、近代以降の所産と考えられる。

2号溝跡 D11グリッド～E11グリッドに位置する。N-74°-Wに主軸をもつ。長さ3.52m、幅0.52mを測る。西壁際で1号井戸跡により切られているが、この溝は1区の6号溝へ続く溝である。

3号溝跡 3区東端に検出された。北及び東が調査区外になるため検出できた一部分での観察となるが、東からの流路が北に屈曲する部分である。検出面から最深部まで1.19mを測り、箱型状を呈する。覆土中から焼土及び炭化物とともに、13世紀後半から14世紀前半に位置づけられる常滑の大型甕の破片及び大型のふいごの羽口3点が検出された。

4号溝跡 調査区の西部を南北に横切る形で検出された。S-16°-Eに主軸をもち、上部構造として石列及び胴木を伴う。近代以降の屋敷境界を示す溝で、2区4号溝跡に続くものである。

(2) 土 坑 (図24)

1号土坑 C8グリッドに位置する。長軸1.42m、短軸1.08mの不整円形のプランを呈し、深さ0.41mを測る。

2号土坑 C7グリッドに位置する。南側3/4ほどは調査区外にあたる。検出面からの掘り込みは0.30mほどで、1号溝により切られている。覆土中からは若干の自然石が検出された程度で、性格や時期については不明である。

3号土坑 C7～D7グリッドに位置する。北東部を4号及び5号土坑に切られているため全体の規模は不明だが、検出部分は長軸1.77m、短軸1.06mの不整長方形のプランを呈する。深さは最深部で0.16mを測る。

4号土坑 D8グリッドに位置する。東側を5号土坑に切られる。南北方向に1.34mの長さを有する不整方形のプランを呈する。掘り込みは0.12mと浅く、性格には言及できない。

5号土坑 C8グリッドに位置する。長軸1.62m、短軸1.43mの不整方形のプランを呈し、格出面からの深さは0.56mほどである。内部は木片が多く含まれていたが、時期や性格について不明である。

6号土坑 2号土坑の西側に位置する。南側1/2ほどが調査区外にある。検出面からの掘り込みは0.45mほどで、1号溝跡により切られている。

(3) 井戸跡

1号井戸跡は、西壁間際から1/4ほど確認できた。不整円形のプランを呈し、2号溝跡を切る形で検出された。確認面での最大長は1.6mを測る。覆土から擂鉢の破片が数点出土した。

(4) ピット

「3区ピット観察表」参照。

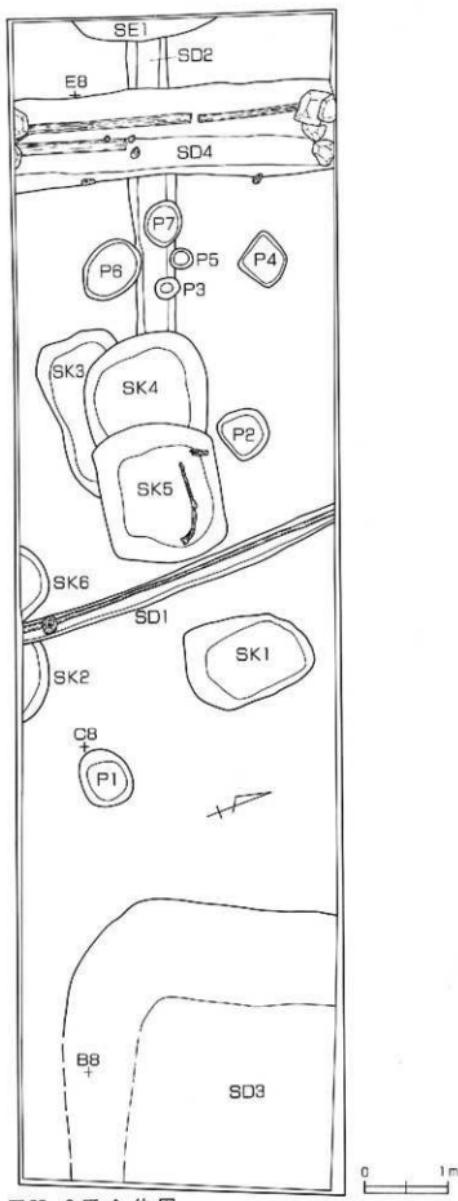


図22 3区全体図

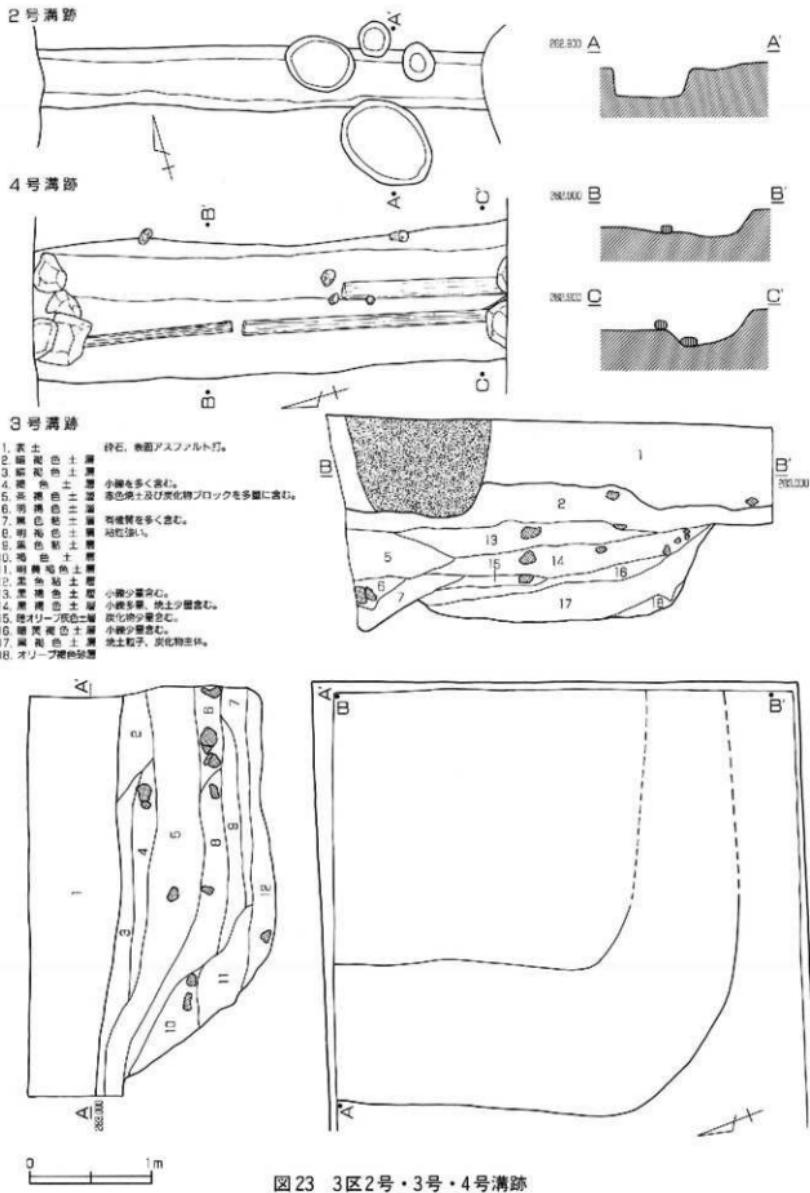
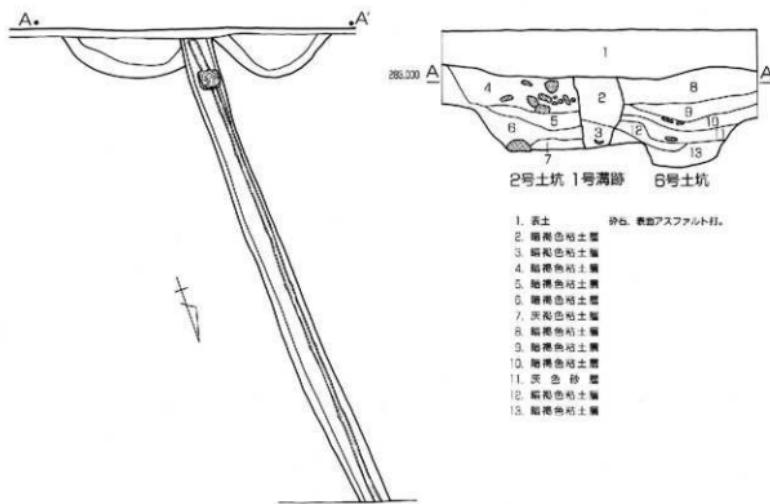
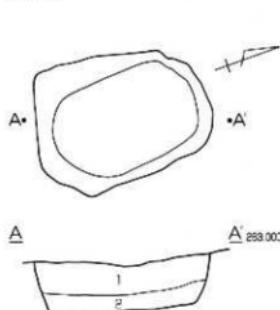


図23 3区2号・3号・4号溝跡

2号・6号土坑、1号溝跡



1号土坑



3号・4号・5号土坑

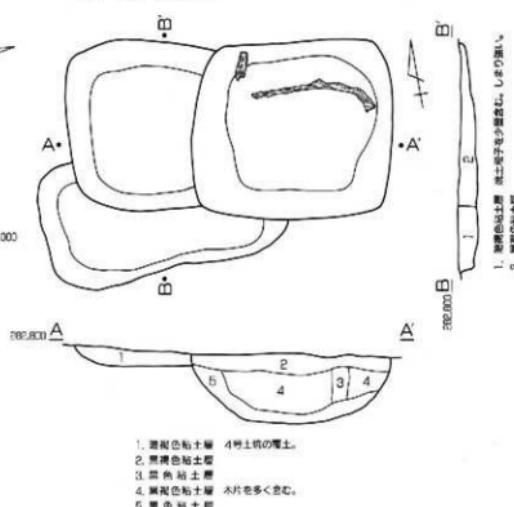


図24 3区1号溝跡、1号～6号土坑

(5) 遺物 (図25~26)

3区では、1・2区とはほぼ同じく、中世から近代に及ぶ遺物が検出されている。中世遺物は、3号溝跡から多数検出されている。2・4・5号土坑は、18世紀後半から19世紀にかけての遺物を主体とする。

124~133は3号溝跡から検出されている。124は常滑の甕であり、13世紀後半から14世紀前半に位置づけられる。内面には黒色を呈する布と漆の付着が確認される。125はかわらけである。126の鉄釉の皿は、志戸呂製と考えられる。127・128の白磁皿と129の染付皿は、16世紀代の中国製磁器である。130~132はふいごの羽口である。3点とも最大径9~10cm、孔径2~3cmを測り、胎上は部分的に赤褐色を呈し、溶融物の付着が見られる。133は安山岩製のひで鉢であり、一部分に炭化物の付着が確認される。

134は2号土坑出土の肥前系青磁の火入れである。135は4号土坑から出土した肥前系磁器の染付碗である。

136~153は5号土坑から出土した遺物であり、主に18~19世紀代である。136は外面上に炭化物が付着した焰烙鍋である。137・138は瀬戸製陶器である。139は呉器予碗である。140は外面上に貫入が見られる陶器の碗であり、141の碗は瀬戸製陶器である。142の肥前系磁器の染付皿は、見込み部にコンニャク判の五弁花文があり、裏面には判読不明の文字が見られる。143は肥前系磁器の碗であり、見込み部に手描きの五弁花文を崩したものと考えられる模様が描かれている。144の碗は、口縁部周辺に珊瑚釉がかかった瀬戸製陶器である。

145は産地不明の大皿である。146の小碗と147の丸碗は、肥前系磁器である。148は肥前系磁器の御神酒徳利であり、18世紀に比定される。149は器種不明の十製品の一部であり、円弧状の模様が見られる。150~153は土鉢である。いずれも素焼きであり、152・153は孔に銅線が見られる。154・155の擂鉢は、1号井戸跡から検出された。154は近世の瀬戸製品である。155は16世紀前半と考えられる瀬戸美濃系擂鉢である。

156~158は金属製品である。156は2号土坑、157は3号溝跡から出土したキセルの吸い口である。157の内部には、竹製の羅字の残存が確認される。158はピット6から検出された寛永通宝の一文銭であり、裏面に「文」の文字が見られる。

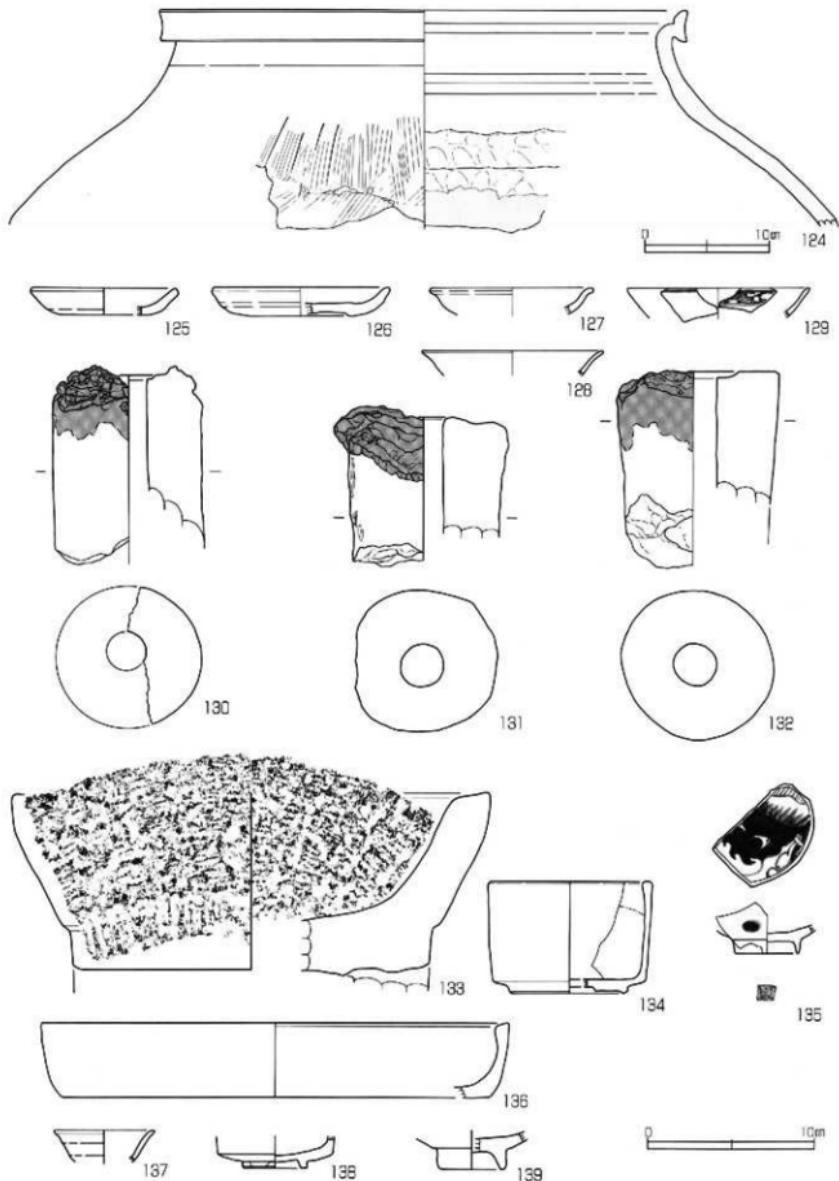


图25 3区3号溝跡、2号・4号・5号土坑(1)出土遺物

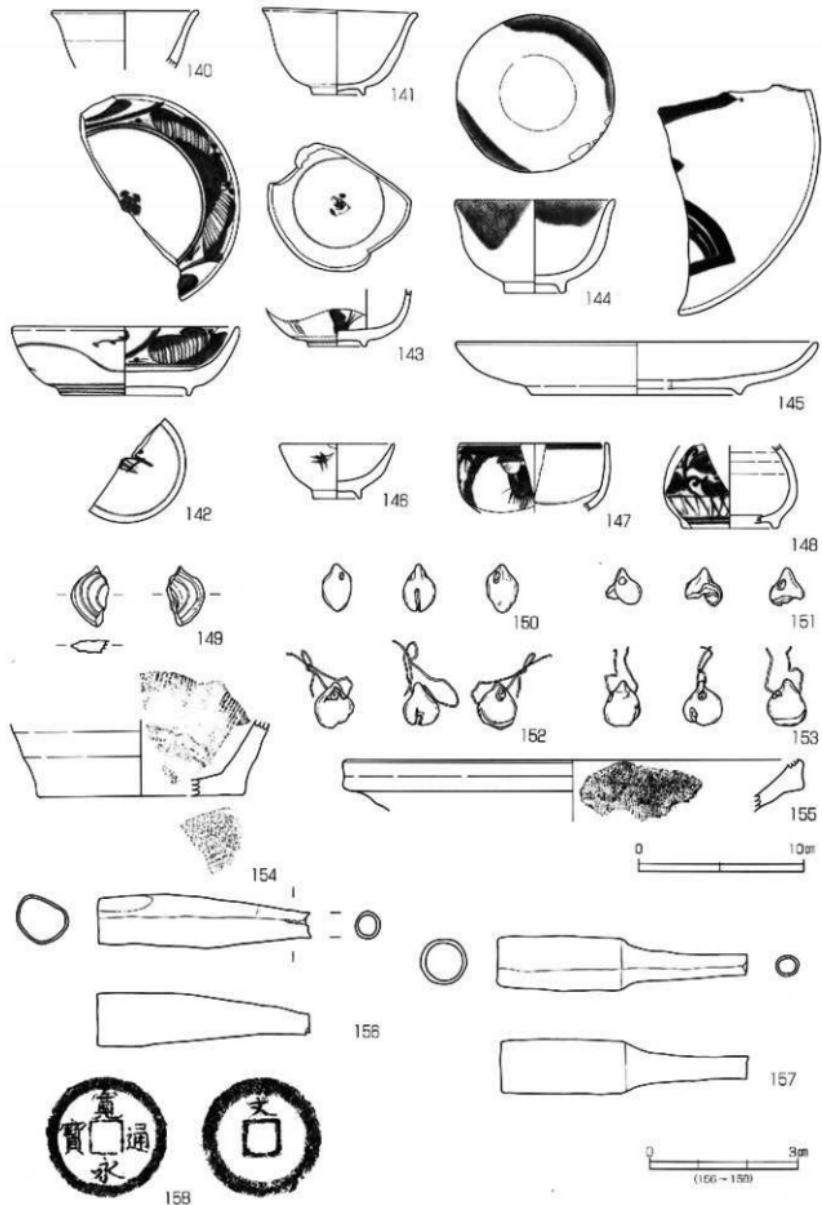


図26 3区5号土坑(2)、1号井戸跡出土遺物

第4章 まとめ

今回の調査では、中世から近代に至る遺構・遺物が確認された。3区の遺物から見る限りにおいては、早ければ中世初頭から、このあたりの土地利用が開始されていたことが理解される。遺構の主体を占めるものは近世半ば以降の18・19世紀であるが、遺物的には13世紀後半までさかのぼりうる。

中世 今回の調査により検出された中世に位置づけられる遺構は、1区1号溝跡、4号土坑及び3区3号溝跡である。このうち1号溝跡および3区3号溝跡は、近世の遺構に比べると明らかに大規模で、掘り込みもしっかりしている。ともに堀跡を劈開させるものである。

1号溝跡と主軸を同じくするものは、5号及び6号溝跡である。しかし、これらの溝跡は、その規模において1号溝跡とは異なっており、同時代性を窺うことはできない。

3区3号溝跡の覆土中からは、13世紀後半から14世紀前半に位置づけられる常滑の甕の破片が検出されている。今回の調査で出土した最も古い時期の遺物である。しかし、内面を漆で補修していることを考えると、使用年代は下るであろう。したがって他の遺物同様、16世紀中の使用と考えるのが妥当で、溝の廃棄時期もこの時期以降と判断されよう。これら2本の溝跡は、継続的に溝として機能し、その後城下町の整備に伴い埋め戻されたものと思われる。

これら2本の溝跡より若干新しい時期につくられたものが、1区4号土坑である。面的には近世の遺構面と同じであるが、上部に自然礫が充填され、それに伴って土製の三脚付香炉が、また底部には埋葬人骨とともに土師質土器及び古銭が副葬されている。いずれも16世紀代に比定される。

中世城下町南部と近世城下町北部が互いに重複していることはすでに指摘されているが、今回の調査成果から、中世集落の成立及び発展は中世初頭にその初源を見いだすことが可能であろう。

近世 今回の調査地は元速雀口が置かれていたと想定される場所に隣接し、橋小路から10mほど東に入った地点にある。近世城下町を記した諸絵図を見ても、この地に施設的な記載は認められず、城下町に組み込まれていても機能的には全くの空閑地であったと思われる。こうした状況の中で、主軸を東西方向にもつ各溝跡と土坑を概ね近世に位置づけることが可能である。

1区6号土坑内部からは、桶の底部と思われる木製品が確認されている。埋桶は平成13年度に調査された桜シルク地点の調査でも13基が確認されているが、その機能については未解明な部分が多い。

近代以降 近代になると土地利用が活発化し、現在の土地区分に合った区割りができ上がったと思われる。1区7号溝跡及び2区4号溝跡と、4号溝跡に続く3区の溝跡はいずれも近代以降の所産である。

1区7号溝跡は、下部に丸太を置き、その上に自然礫を並べていたことが確認でき、また2区4号溝跡は丸太の上に切石を並べている。どちらも土地境界を示していると思われる。

2区から検出された1号建物跡は、単に掘立柱の上屋構造をもつ建物跡とは、規模的に

も時代的にも考えにくい。一部の柱穴には礫を充填していることから、礎石を伴う建物を想像することも可能だが、結論を導くためには類例の増加を待たなければならない。

引用・参考文献

1. 「甲府市水道史 歴史編」甲府市水道局水道史編纂委員会 1988年
2. 「甲府市史 別編III 甲府の歴史」甲府市市史編さん委員会 1988年
3. 「甲府城下町遺跡I -北口二丁目(桜シルク跡)発掘調査報告書-」甲府市教育委員会 2001年
4. 「定本山梨県の城」郷土出版社 1991年
5. 「甲斐国志」(雄山閣大日本地誌大系本)
6. 「西山梨郡志」山梨県教育会西山梨郡支会 1926年
7. 「甲府略志」甲府市役所 1918年

1区ピット觀察表

単位: cm ()は現存値

番号	平面形態	短径	長径	深さ	備考
1	不整円形	38	44	28	
2	円形	16	24	13	
3	円形	25	30	17	
4	円形	43	47	11	
5	楕円形	23	35	28	
6	円形	30	32	20	
7	円形	25	27	26	
8	不整円形	60	67	18	
9	円形	23	28	18	
10	円形	19	22	31	
11	円形	20	26	17	
12	不整円形	25	28	14	3号溝跡中 欠
13					
14	円形	22	28	28	
15					欠
16	円形	20	26	—	
17	不整円形	(26)	32	13	
18	不整円形	27	35	18	
19					欠
20					欠
21	円形	10	10	5	
22	円形	22	22	7	
23	不整円形	15	18	11	
24	楕円形	27	30	10	
25	円形	18	21	10	
26	円形	19	19	8	
27	円形	24	26	17	
28	円形	24	24	18	2号溝跡を切る
29	円形	24	26	21	
30	円形	23	28	30	
31	不整円形	(40)	54	21	
32	不整円形	(38)	66	21	
33	円形	20	20	12	
34	楕円形	23	28	16	
35	不整円形	30	(33)	42	P37に切られ、P67を切る
36	楕円形	25	31	27	
37	円形	22	28	32	P35、P67を切る 鉄軸茶入出土
38	円形	19	22	26	
39	円形	(40)	45	12	6号溝跡中 P40を切る
40	不整円形	(35)	45	21	6号溝跡中 P39に切られる
41	円形	20	23	11	
42					欠
43	円形	24	26	20	
44	円形	20	24	9	
45	円形	14	15	25	
46	円形	14	18	15	
47	不整円形	(20)	35	(2)	
48	円形	32	40	11	7号溝跡中
49	円形	23	30	17	8号溝跡を切る
50	楕円形	20	28	16	
51	楕円形	14	16	7	
52	円形	18	22	11	
53	円形	32	36	—	
54	不整円形	22	23	34	
55	円形	14	15	13	

番号	平面形態	短径	長径	深さ	備考
56	円形	24	30	16	
57	円形	24	27	15	4号溝跡を切る
58	不整円形	30	33	18	
59	不整円形	(46)	58	17	
60	不整円形	66	85	5	近世末~近代瓦出土
61	円形	28	30	31	
62	円形	21	24	11	4号溝跡を切る
63	円形	20	23	30	7号溝跡を切る
64	円形	20	22	15	
65	円形	23	23	(3)	
66	円形	25	26	10	
67	不整円形	(22)	36	24	P35・P37に切られる
68	不整円形	37	44	22	1分溝跡中
69	円形	20	20	26	1号溝跡中
70	不整円形	(30)	35	38	P71に切られる
71	不整円形	(18)	20	21	P70を切り、P72に切られる
72	不整円形	25	28	19	P71を切る
73	円形	28	32	27	
74	楕円形	15	20	15	
75	不整円形	64	67	11	
76	不整円形	(16)	32	6	
77	不整円形	47	50	25	
78	楕円形	26	30	11	
79	不整円形	34	38	15	
80	円形	22	24	13	
81	円形	18	24	19	4号溝跡を切る
82	円形	(15)	19	13	
83	円形	24	26	—	
84	円形	22	25	—	
85	円形	28	32	—	1号土坑を切る
86	円形	28	30	19	

2区ピット観察表

単位:cm ()は現存値

番号	平面形態	短径	長径	深さ	備考
1	楕円形	34	47	16	
2					欠
3	方形	61	72	30	1号建物跡
4	不整方形	39	46	5	
5	不明	(15)	(50)	(7)	P104に切られる
6					欠
7	方形	(82)	100	(12)	P103に切られる
8					欠
9					欠
10	楕円形	30	40	12	2号溝跡を切る
11					欠
12	方形	68	72	16	1号建物跡 かわらけ・中国製染付皿出土
13					欠
14	方形	63	65	25	3号溝跡を切る 1号建物跡
15	方形	64	65	22	1号建物跡 キセル出土
16	不整方形	33	37	17	P17を切る
17	方形	64	74	21	P16に切られる 1号建物跡
18					欠
19	方形	69	70	23	2号溝跡を切る 1号建物跡 内部に礫を伴う
20					欠
21	方形	68	69	31	1号建物跡
22	不整楕円形	54	87	7	

番号	平面形態	短径	長径	深さ	備考
23	不整方形	61	65	25	1号溝跡を切る 1号建物跡
24	不整楕円形	21	45	22	1号溝跡を切る
25	円形	31	33	21	
26	不整方形	25	40	15	P27との切り合い関係は不明
27	方形	24	27	21	P28に切られる
28	方形	62	64	24	P27を切る 1号建物跡
29	円形	21	23	11	
30	方形	45	58	26	
31	椭円形	28	35	23	
32					欠
33	方形	62	67	23	1号建物跡
34	不整円形	33	39	13	
35	円形	22	26	7	P36を切る
36	不整方形	42	70	18	P35に切られる 1号建物跡
37	方形	67	90	26	2号溝跡を切る 1号建物跡 内部に礫を伴う
38	方形	55	61	21	1号建物跡
39	方形	(65)	(70)	21	P41を切る 1号建物跡
40	不整楕円形	67	85	15	灯明受皿出土
41	不整楕円形	(55)	120	17	P39に切られる
42	不整方形	65	70	17	1号建物跡
43					欠
44	方形	63	65	19	2号土坑に切られる 1号建物跡 肥前系磁器出土
45	方形	62	63	19	1号建物跡
46	隅丸方形	45	57	24	
47	方形	44	(52)	15	1号建物跡
48	不整楕円形	16	40	23	
49	方形	67	67	22	1号建物跡
50	方形	67	71	17	P56を切る 1号建物跡
51	楕円形	21	31	25	
52	不整方形	58	60	12	1号建物跡
53					欠
54					欠
55	不整円形	23	30	13	
56	不整円形	31	(36)	4	P50に切られる
57	方形	78	79	24	1号建物跡
58	方形	62	63	18	1号建物跡
59	方形	60	67	13	1号建物跡
60	方形	58	64	15	1号建物跡
61	方形	(58)	74	15	1号建物跡
62	不整方形	57	59	9	1号建物跡
63					欠
64	方形	60	60	14	1号建物跡
65					欠
66					欠
67	不整円形	26	35	18	
68	不整円形	(50)	51	35	5号溝跡に切られる
69	不整楕円形	49	81	14	P70を切る
70	不整円形	(33)	43	15	P69に切られる
71	不整楕円形	(48)	(95)	11	1号土坑・P73に切られる
72	不整円形	(22)	(43)	7	P73を切り、P74・4号溝跡に切られる
73	円形	32	33	—	P72に切られ、1号土坑を切る
74	不整円形	36	(51)	15	P72を切り、4号溝跡に切られる
75					欠
76	不整方形	57	78	25	1号建物跡
77	方形	57	73	44	1号建物跡

番号	平面形態	短径	長径	深さ	備考
78	方形	68	70	19	1号建物跡
79	不整方形	80	86	18	1号建物跡
80	方形	62	80	20	1号建物跡
81	方形	76	85	25	1号建物跡
82	不整方形	70	77	17	1号建物跡
83	円形	30	32	20	
84	円形	40	40	12	
85	円形	29	30	23	
86	円形	23	25	11	
87	方形	23	32	22	
88	不整円形	28	32	17	
89	方形	70	70	22	1号建物跡
90	不整橢円形	39	54	31	
91	方形	(35)	68	2	1号建物跡
92	方形	65	65	25	1号建物跡
93					欠
94	不整円形	32	(40)	12	
95	不整円形	36	42	21	
96	円形	31	31	19	現出土
97	方形	(32)	66	25	1号建物跡
98	不整円形	21	24	28	1号溝中
99	不整方形	(72)	(78)	17	礎石か？ 1号建物跡
100	不整円形	37	40	31	
101	円形	31	37	20	
102	不明	(27)	39	21	2号溝跡に切られる
103	不整方形	72	74	21	P 7を切る 1号建物跡
104	方形	68	71	22	P 5を切る 1号建物跡
105	方形	27	28	25	
106	不整円形	23	27	16	
107	円形	28	28	—	
108	不整円形	(30)	45	20	2号溝跡を切る
109	円形	17	20	23	
110	方形	(36)	70	27	1号溝跡を切る 1号建物跡
111	方形	54	65	17	1号建物跡
112	方形	66	72	39	1号建物跡
113	円形	30	33	23	
114	方形	(30)	53	31	1号建物跡
115	不整円形	29	35	29	
116	方形	63	67	33	1号建物跡
117	方形	58	64	—	1号建物跡
118	方形	69	72	25	1号建物跡
119	不整円形	20	27	26	4号溝跡中
120	円形	(20)	44	26	
121	方形	(80)	100	29	
122	不明	(23)	(55)	11	2号井戸中

3区ピット觀察表

単位：cm ()は現存値

番号	平面形態	短径	長径	深さ	備考
1	不整円形	60	72	9	
2	不整円形	56	60	11	
3	不整円形	25	30	20	2号溝跡を切る
4	不整方形	52	54	15	
5	円形	25	26	15	2号溝跡を切る
6	椭円形	62	82	24	2号溝跡を切る 寛永通宝一文銭出土
7	不整円形	44	57	12	2号溝跡を切る

遺物観察表(1)

()復元値、()残存値

図 番 号	出土位置・遺構	器 種	法 量(cm)			推 定 生 産 地	色 調	規 格	備 考
			口徑	高 さ	底 径				
8 1	1区 1号溝跡上層	土器・かわらけ	(11.2)	(1.8)	(7.4)	在地	SYR に bei 黄褐色 5/4	良	
9 2	1区 1号溝跡上層	土器・かわらけ	(10.5)	(2.2)	-	在地	SYR 俗 6/6	良	
10 3	1区 1号溝跡上層	土器・かわらけ	(12.4)	(1.8)	-	在地	SYR に bei 棕 6/4	良	
11 4	1区 1号溝跡上層	陶器・瓶	(10.8)	(2.3)	(5.0)	瀬戸美濃	10YR 灰色 7/1 鉄釉	良好 大窓 3	
12 5	1区 1号溝跡上層	陶器・内壳皿	10.4	2.2	5.0	瀬戸美濃	7.5YR 棕 7/6 鉄釉	良好 大窓 3 輪子底	
13 6	1区 1号溝跡上層	陶器・盛	(13.0)	(4.2)	-	焼栗	2.5Y 黄灰 6/1	良好	
14 7	1区 1号溝跡上層	陶器・白磁盤	-	(1.7)	(6.3)	中国	2.5Y 黄灰 8/1	良好	高台部砂付
15 8	1区 1号溝跡上層	磁器・皿	(13.0)	(1.8)	-	中国	染付	良好	
16 9	1区 1号溝跡上層	磁器・碗	-	(12.0)	(2.5)	中国	染付	良好	
17 10	1区 1号溝跡上層	断器・擂钵	(27.0)	(10.8)	(10.0)	瀬戸天目	10YR 浅黄橙 8/3 鉄釉	良好 大窓 2	
18 11	1区 1号溝跡	陶器・擂钵	-	(9.2)	-	瀬戸美濃	10YR 浅黄橙 8/4 鉄釉	良好 大窓 4	
19 12	1区 1号溝跡上層	陶器・擂钵	(29.0)	(2.6)	-	志戸呂	10YR に bei 黄橙 鉄釉	良好 大窓 3	
20 13	1区 1号溝跡	陶器・擂钵	(28.0)	(2.7)	-	瀬戸美濃	10YR 灰色 7/2 鉄釉	良好 大窓 2	
21 14	2号溝跡	土器・焰塔鍋	(23.4)	(5.0)	(2.2)	在地	7.5YR に bei 棕 5/4	良	
22 15	3号溝跡	陶器・擂钵	-	(2.2)	(15.0)	瀬戸	10YR 浅黄橙 8/3 鉄釉	良好 近世	
23 16	4号溝跡	土器・かわらけ	(13.9)	(2.9)	(7.6)	在地	10YR に bei 黄橙 7/3	良	
24 17	1区 5号溝跡	土器・かわらけ	10.2	2.5	4.4	在地	5YR に bei 棕 6/4	良	
25 18	1区 5号溝跡	土器・かわらけ	(11.0)	(1.7)	(7.2)	在地	10YR に bei 黄橙 6/3	良	
26 19	1区 5号溝跡	土器・かわらけ	8.9	1.95	4.6	在地	7.5YR に bei 棕 6/4	良 口縁・内面炭化物付着	
27 20	1区 5号溝跡	陶器・丸皿	-	(1.1)	(6.3)	瀬戸美濃	10YR 灰色 7/1 鉄釉	良好 大窓 2 輪子底	
28 21	1区 5号溝跡	磁器・吉縁酒会盃	-	(4.8)	(19.0)	中国 N	灰白色 8/2 青磁釉	良好 龍泉窯	
29 22	1区 5号溝跡	陶器・甕	-	-	-	滑石	10R 赤 5/6	良好	
30 23	1区 7号溝跡	瓦・軒瓦	-	-	-	5Y 灰 5/1	良 近代		
31 24	1区 7号溝跡	瓦・軒丸瓦	-	-	-	5Y 灰白 7/1	良 近代		
32 25	1区 7号溝跡	陶器・碗	-	2.7	5.2	10YR 黄灰 6/1 灰釉	良		
33 26	1区 7号溝跡	陶器・尾呂茶碗	-	2.8	4.7	2.5Y 淡黄 8/3 灰釉	良 尾呂窯		
34 27	1区 7号溝跡	磁器・広州青花	10.2	2.85	3.8	肥前	染付	良好 19C	
35 28	1区 7号溝跡	磁器・簡茶碗	7.2	5.5	3.2	肥前	染付	良好	
36 29	1区 7号溝跡	陶器・碗	9.8	4.8	3.8	2.5Y 灰青 7/2 濃い青釉・鉄釉	良好		
37 30	1区 1号土坑	陶器・皿	20.0	(3.4)	-	10YR に bei 黄橙 7/2 錫釉	良好		
38 31	1区 1号土坑	陶器・擂钵	28.0	(7.7)	-	志戸呂 2.5Y 黄灰 5/1 鉄釉	良好 16C 後半		
39 32	1区 1号土坑	磁器・碗蓋	10.8	2.9	4.2	瀬戸	染付	良好 近代	
40 33	1区 2号土坑	磁器・青磁盤	30.0	(3.0)	-	中国 N 灰白 8/2 青磁釉	良好 龍泉窯		
41 34	1区 4号土坑	土器・かわらけ	12.8	2.9	6.4	在地	5YR 棕 6/6	良 16C	
42 35	1区 4号土坑	土器・三脚付鉢	9.2	4.8	6.4	在地	7.5YR 明褐灰 7/2	良 16C	
43 36	1区 5号土坑	陶器・碗	(8.0)	(3.3)	-	瀬戸	5Y 灰白 8/1 灰釉	良好 器底に細かい貯入	
44 37	1区 6号土坑	陶器・蓋	(9.6)	(2.4)	(3.8)	瀬戸	2.5Y 灰白 8/1 長石釉・鉄絞	良好	
45 38	1区 11号土坑	陶器・天目茶碗	(12.0)	(3.8)	-	瀬戸美濃	10YR 灰白 7/1 鉄釉	良好 大窓 2	
46 39	1区 11号土坑	磁器・丸碗	(9.8)	(4.9)	-	肥前	染付	良好 18C 後半以降	
47 40	1区 11号土坑	陶器・折縁鉢	(38.0)	(5.7)	-	瀬戸	N 灰 6/1 黄釉	良好 内面一部鉄絞	
48 41	1区 11号土坑	陶器・擂钵	(32.0)	(4.3)	-	瀬戸	2.5Y 灰黄 7/2 鉄釉	良好	
49 42	1区 1号井戸跡	磁器・碗	(9.6)	(3.4)	-	肥前	染付	良好 雨附り	
50 43	1区 1号井戸跡	陶器・碗	(9.5)	(5.8)	(3.9)	染付		良好	
51 44	1区 1号井戸跡	陶器・蓋	-	(14.5)	(11.0)	瀬戸	2.5Y 灰白 8/1 黄釉	良好	
52 45	1区 ピット37	陶器・茶入	(5.8)	(2.7)	(6.9)	瀬戸美濃	7.5YR 極灰 6/1 染付	良好	
53 46	1区 砕石	陶器・上釉蓋	8.5	3.7	10.8	不明	5Y 灰白 8/2 三輪	良好 19C	
54 47	1区 8号土坑	瓦・軒瓦	-	-	-	2.5Y 灰白 7/1	良		
55 48	1区 8号土坑	瓦・丸瓦	-	-	-	7.5Y 灰 6/1	良		
56 49	1区 8号土坑	瓦・冠瓦	-	-	-	5Y 灰白 7/1	良		
57 50	1区 8号土坑	瓦・施瓦	-	-	-	5Y 灰白 7/1	良		
58 51	1区 8号土坑	瓦・冠瓦	-	-	-	5Y 灰 6/1	良		
59 52	1区 8号土坑	瓦・軒瓦	-	-	-	5Y 灰 6/1	良		
60 53	1区 8号土坑	瓦・軒瓦	-	-	-	2.5Y 灰白 7/1	良		
61 54	1区 8号土坑	瓦・軒瓦	-	-	-	5Y 灰 6/1	良		
62 55	1区 8号土坑	瓦・丸瓦	-	-	-	5Y 灰 6/1	良	近世	
63 56	1区 8号土坑	瓦・横瓦	-	-	-	5Y 灰 6/1	良		
64 57	1区 G-7	土器・かわらけ	4.25	2.0	5.3	在地	10YR に bei 黄橙 7/3	良 口縁部に炭化物付着	
65 58	1区 H-8	土器・内耳鍋	(29.8)	(5.6)	(27.0)	在地	5YR に bei 染付 5/4	良 内外面炭化物付着	

遺物観察表(2)

()復元値、< >残存値

図 番 号	出土位置・遺構	器種	法 量(cm)		堆 積 生 産 地	色 調	焼 成	備 考
			口径	器高 底径				
12 59	1区	土器・焼鉢	(34.4)	(8.8) (30.0)	在地	5YR に近い赤褐色 5/4	良	近世 砂底
〃 60	1区	上部・火葬	(22.0)	(6.5) -		5YR に近い赤褐色 5/3	良	内外陶器色
〃 61	1区	陶器・ひょうそく	-	(5.2) 3.0		10R 赤褐色 5/4 鉄錆	良好	
〃 62	1区	陶器・壺	-	(5.3) (13.0)	瀬戸	10YR に近い黄褐色 6/4 鉄錆	良好	
〃 63	1区	磁器・青磁碗	-	(2.5) (4.8)		N 灰白 8/ 青磁釉	良好	
〃 64	1区 G-8	陶器・碗	(2.2)	- (5.0)		10YR 灰白 7/1	良好	
〃 65	1区	陶器・半筒形碗	(10.0)	(5.0) -	瀬戸	5Y 灰白 8/1 灰釉	良好	
〃 66	1区 H-9	陶器・尾呂茶碗	(10.0)	7.0 4.8	瀬戸	2.5Y 灰白 8/2 黄釉	良好	尾呂窯
〃 67	1区	磁器・白磁盤	(13.0)	(2.3) -	中国	N 灰白 8/	良好	
〃 68	1区	磁器・碗	(10.0)	(4.8) (3.8)	肥前	染付	良好	18C
〃 69	1区	磁器・御神酒利	-	(4.4) 2.8	肥前	染付	良好	
〃 70	1区	磁器・段重	(12.0)	(4.6) (11.4)	肥前	染付	良好	
〃 71	1区	磁器・八角鉢	(17.6)	(6.2) -	肥前	染付	良好	煙突有り
〃 72	1区	鋼鉄	直径 2.83	穿径 0.56 厚さ 0.13			-	寛永通宝 四文銭
〃 73	1区	鋼鉄	直径 2.46	穿径 0.59 厚さ 0.14	中国		-	北宋銭か?
〃 74	1区	鋼鉄	直径 2.43	穿径 0.65 厚さ 0.15	中国		-	北宋銭か?
〃 75	1区 磐石 7	鋼製品・キセル	直径 1.0	長さ 3.1	-		-	近世
18 26	2区 1号建物跡ピット12	上部・かわらけ	9.4	2.4 5.9	在地	7.5YR に近い褐 5/4	良	口縁及び内面炭化物付着
〃 77	2区 1号建物跡ピット12	磁器・皿	10.5	(2.3) -	中国	染付	良好	
〃 78	2区 1号建物跡ピット44	磁器・碗	-	(4.0) 4.0	肥前	染付	良好	
〃 79	2区 1号土坑	陶器・丸皿	10.6	2.9 6.0		2.5Y 灰白 8/2 灰釉	良好	2次被熱
〃 80	2区 1号土坑	陶器・碗	-	(1.5) 5.5		2.5Y 灰黄 7/2	良好	
〃 81	2区 1号土坑	磁器・仏飯器	(5.7)	5.8 4.0	肥前	染付	良好	18C
〃 82	2区 1号土坑	磁器・皿	(14.0)	3.7 (10.0)	肥前	染付	良好	蛇の目回転高台
〃 83	2区 1号土坑	石製品・砾石	-	-			-	
〃 84	2区 1号土坑	木製品・不明	長さ 12.7	幅 9.3 厚さ 2.5			-	
〃 85	2区 1号土坑	木製品・不明	長さ 18.0	幅 9.7 厚さ 3.4			-	
〃 86	2区 1号土坑	木製品・不明	長さ 19.3	幅 6.3 厚さ 3.5			-	
〃 87	2区 1号土坑	木製品・下駄	長さ 21.0	幅 10.2 高さ 4.4			-	
〃 88	2区 1号土坑	木製品・箸	長さ 18.0	幅 0.5 厚さ 0.5			-	
〃 89	2区 1号土坑	木製品・人形	長さ 7.5	幅 7.2 -			-	石・眼珠・口許は墨で描く
19 90	2区 1号土坑	木製品・桶	-	-			-	蓋に焼印有り
〃 91	2区 1号土坑	木製品・曲物	直径 10.1	- 厚さ 0.2			-	
〃 92	2区 1号土坑	木製品・曲物	外径	- 厚さ 0.3			-	漆付着
〃 93	2区 1号土坑	木製品・曲物底板	直径 10.5	- 厚さ 0.6			-	漆付着
〃 94	2区 1号土坑	木製品・不明	長さ 12.3	- 厚さ 0.8			-	
〃 95	2区 1号土坑	木製品・不明	長さ 28.0	幅 2.8 厚さ 0.5			-	
〃 96	2区 1号土坑	竹製品・棒	長さ 28.0	最大径 2.5 -			-	
20 97	2区 2号土坑	磁器・碗	9.0	4.5 3.4		赤輪	良好	20C
〃 98	2区 2号土坑	磁器・碗	10.6	5.6 3.4	瀬戸	染付 銅版転写	良好	20C
〃 99	2区 2号井戸跡	土器・片口縁	27.0	(8.5) -	在地	10YR に近い黄褐色 6/4	良好	外面炭化物付着
〃 100	2区 ピット40	陶器・灯明受皿	10.0	2 4.0		2.5Y 灰白 7/1 鉄錆	良	19C
〃 101	2区 ピット96	石製品・硯	長さ (6.0)	幅 (12.1) 厚さ (1.4)	-		-	
〃 102	2区	上部・火葬	-	(11.0) (19.7)	在地	7.5YR に近い橙 6/4	良	近世 ロクロ皮影 内面炭化物付着
〃 103	2区 D-2	土器・甕	-	(11.5) 19.7	在地	10YR に近い黄褐色 7/4	良	近世 内面付着物有り
〃 104	2区 D-2	土器・甕	-	(11.5) 22.0	在地	5YR 橙 6/6	良	近世

遺物観察表(3)

()復元値、(<)残存値

回 番 号	出土位置・造構	器種	法 量 (cm)			性 定 生産地	色 調	焼 成	備 考
			口径	器高	底径				
21	105 2区	陶器・十瓢壺	—	<28.0	27.2	不明	2.5Y 灰白 7/1 灰釉	良好	
〃	106 2区	陶器・小环	7.3	1.6	2.8	不明	7.5YR 極灰 6/1 灰釉	良好	
〃	107 2区	陶器・且	(11.0)	<2.2	—	瀬戸	10YR にぶい黄鉄 7/3 灰釉	良好	
〃	108 2区	陶器・油受け皿	10.0	1.8	4.3	瀬戸	5Y 灰 6/1 鉄釉	良好	
〃	109 2区 C-1	陶器・油受け皿	9.8	2.1	4.4	瀬戸	10YR 灰白 7/1 鉄釉	良好	
〃	110 2区	陶器・天目茶器	(12.2)	5.7	—	瀬戸美濃	10YR 灰白 8/2 鉄釉	良好	大室3
〃	111 2区	土器・不明	5.0	3.4	3.7	—	5YR にぶい橙 6/3	良好	
〃	112 2区	磁器・小壺	3.0	2.7	4.7	—	2.5Y 灰白 8/1 無釉	良好	
〃	113 2区	磁器・瓶	(11.4)	(2.9)	(7.0)	中国	染付	良好	
〃	114 2区	磁器・瓶	—	<2.7	(9.4)	肥前	染付	良好	焼黒ぎ有り 蛇の目彫高台
〃	115 2区	磁器・碗	10.0	5.3	3.8	瀬戸	染付	良好	
〃	116 2区	磁器・碗	—	<3.6	3.4	肥前	染付	良好	
〃	117 2区	磁器・青形碗	(7.9)	<5.7	—	肥前	染付	良好	
〃	118 2区	磁器・碗蓋	9.3	2.6	3.4	瀬戸	染付	良好	
〃	119 2区	磁器・広葉柄碗	(10.4)	(2.5)	5.5	肥前	染付	良好	
〃	120 2区	磁器・碗蓋	(10.1)	(2.4)	(4.2)	肥前	染付	良好	
〃	121 2区	磁器・蓋	(17.8)	(4.5)	7.2	肥前	染付	良好	焼黒ぎ有り「大明成化年製」
〃	122 2区	磁器・碗	11.4	4.5	3.7	染付	銅版転写	良好	近世
〃	123 2区 1号建物跡ピット15	銅製品・キセル	最大径 1.1	最小径 0.6	長さ <4.3	—	—	—	
25	124 3区 3号溝跡	陶器・甕	(43.0)	<17.8	—	常滑	2.5YR にぶい赤褐 4/4	良好	13C後半~14C前半 内面・漆付
〃	125 3区 3号溝跡	土器・かわらけ	(4.3)	(1.6)	(5.6)	在地	5YR 橙 6/6	良	
〃	126 3区 3号溝跡	陶器・且	(10.8)	(1.8)	(6.0)	—	2.5Y 黄灰 5/1 灰釉	良好	
〃	127 3区 3号溝跡	白磁・瓶	(10.0)	<1.7	—	中国	—	良好	16C
〃	128 3区 3号溝跡	白磁・且	(11.0)	<1.5	—	中国	—	良好	16C
〃	129 3区 3号溝跡	磁器・碗	(11.0)	<1.75	—	中国	染付	良好	16C
〃	130 3区 3号溝跡	ふいご羽口	最大径 (9.0)	孔径 (2.4)	長さ (12.0)	—	5YR 橙 6/6	—	溶融物付着
〃	131 3区 3号溝跡	ふいご羽口	最大径 9.5	孔径 2.4	長さ (>9.5)	—	5YR 橙 6/6	—	溶融物付着
〃	132 3区 3号溝跡	ふいご羽口	最大径 9.7	孔径 2.9	長さ (12.0)	—	7.5YR 橙 6/6	—	溶融物付着
〃	133 3区 3号溝跡	石製品・ひで鉢	(29.0)	<12.0	(21.6)	—	—	—	安山岩製・一部炭化物付着
〃	134 3区 2号上坑	磁器・青磁火入れ	10.0	6.8	6.6	肥前	N 灰白 8/1 青磁釉	良好	
〃	135 3区 4号土坑	磁器・碗	—	<3.1	4.0	肥前	染付	良好	
〃	136 3区 5号土坑	土器・培燒鉢	28.0	4.5	26.0	在地	5YR 橙 6/6	良好	外面炭化物付着
〃	137 3区 5号土坑	陶器・小碗	6.0	<1.95	—	瀬戸	2.5Y 灰白 8/2 灰釉	良好	
〃	138 3区 5号土坑	陶器・青形碗	—	<1.9	4.0	瀬戸	2.5Y 灰白 8/2 灰釉	良好	
〃	139 3区 5号土坑	陶器・舟形手碗	—	<2.4	(3.6)	肥前	2.5Y 灰白 7/2 透明釉	良好	
〃	140 3区 5号土坑	磁器・碗	8.8	<3.4	—	—	5YR 灰白 8/1 灰釉	良好	外面貯入
〃	141 3区 5号土坑	陶器・碗	9.4	5.0	3.2	瀬戸	2.5Y 灰白 8/2 灰釉	良好	
〃	142 3区 5号土坑	磁器・且	14.0	4.2	8.0	肥前	染付	良好	
〃	143 3区 5号土坑	磁器・碗	—	<3.5	3.6	肥前	染付	良好	
〃	144 3区 5号土坑	陶器・碗	9.6	5.6	3.8	瀬戸	2.5Y 灰白 8/1	良好	
〃	145 3区 5号土坑	磁器・且	(22.0)	(3.2)	(6.6)	肥前	染付	良好	
〃	146 3区 5号土坑	磁器・小碗	(7.0)	(3.3)	(3.0)	瀬戸	染付	良好	
〃	147 3区 5号土坑	磁器・碗	(9.0)	<4.2	—	肥前	染付	良好	
〃	148 3区 5号土坑	磁器・御神酒添利	—	(5.1)	(5.6)	肥前	染付	良好	18C
〃	149 3区 5号土坑	土製品・不明	—	—	—	在地	7.5YR 橙 7/6	良	
〃	150 3区 5号土坑	土製品・土鉢	—	—	—	在地	10YR 灰白 8/2	良	
〃	151 3区 5号土坑	土製品・土鉢	—	—	—	在地	10YR 灰白 8/2	良	
〃	152 3区 5号土坑	土製品・土鉢	—	—	—	在地	7.5YR 浅黄鉄 8/4	良	孔に銅線
〃	153 3区 5号土坑	土製品・土鉢	—	—	—	在地	10YR 浅黄鉄 8/3	良	孔に銅線
〃	154 3区 1号井戸跡	陶器・桔鉢	—	<4.5	(12.4)	瀬戸	10YR 浅黄鉄 8/3 鉄釉	良好	
〃	155 3区 1号井戸跡	陶器・楕鉢	(28.0)	(3.2)	—	瀬戸	10YR 浅黄鉄 8/3 鉄釉	良好	大室1
〃	156 3区 2号上坑	銅製品・キセル	最大径 0.9	最小径 0.5	長さ <4.3	—	—	—	近世
〃	157 3区 3号溝跡	銅製品・キセル	最大径 0.9	最小径 0.5	長さ 5.1	—	—	—	近世 内面に羅字残存
〃	158 3区 ピット6	銅鏡	直径 2.5	穿孔 0.57	厚さ 0.13	—	—	—	寛永通宝裏面に「文」



1 区 全 景



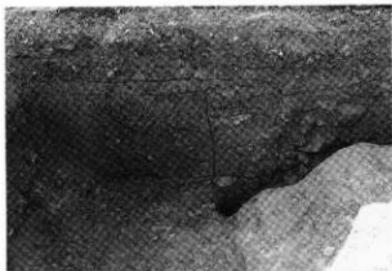
4号·5号·6号溝跡



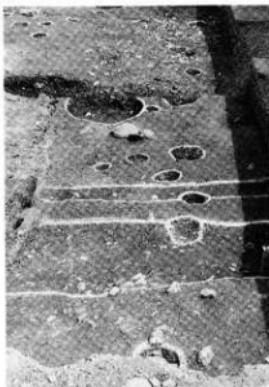
1号溝跡



6号溝跡



1号溝跡、11号土坑



7号·8号溝跡

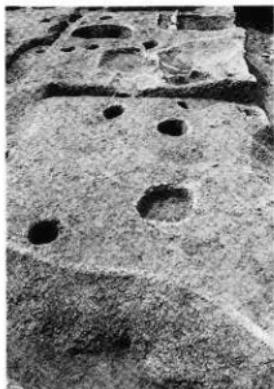
1区 遗 槽 (1)



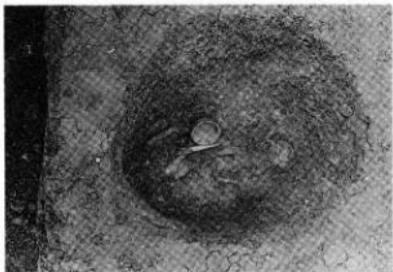
7号溝跡



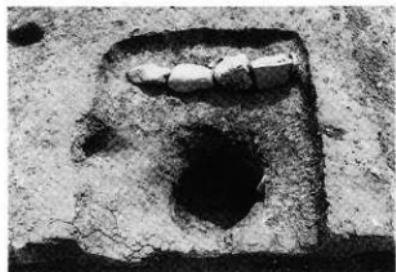
4号土坑上部



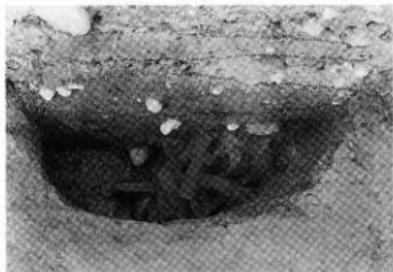
1号～4号土坑他



4号土坑

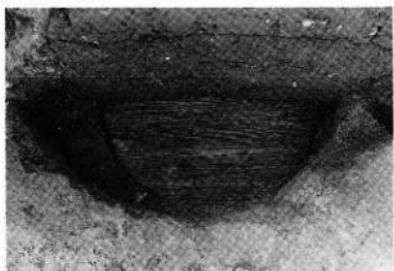


1号土坑



5号土坑

1区遺構(2)



6号土坑



1号井戸跡



8号土坑



1号井戸跡

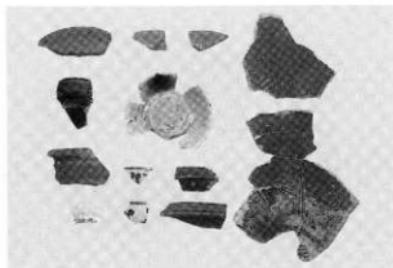


10号土坑

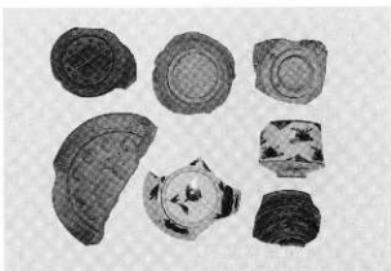


石垣

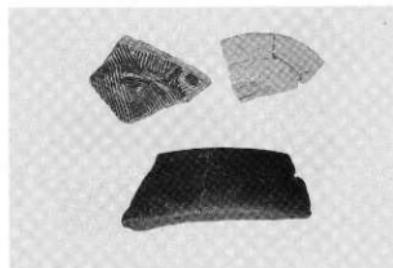
1区造構(3)



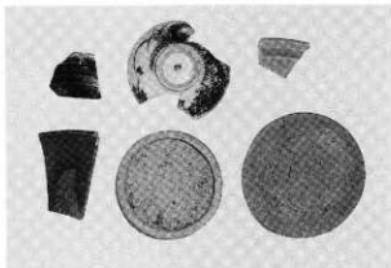
1号溝跡



7号溝跡



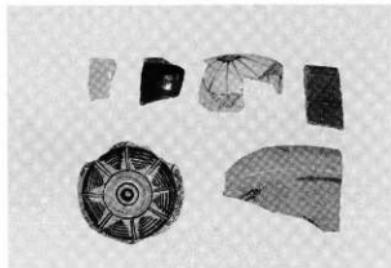
2号・3号・4号溝跡



1号・2号・4号土坑

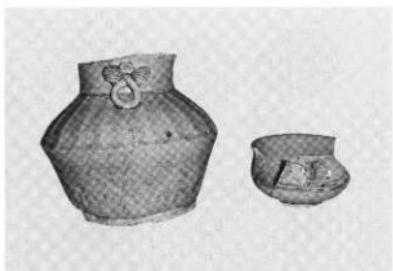


5号溝跡

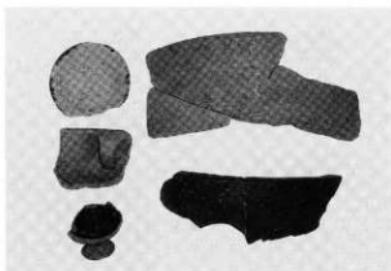


5号・6号・11号土坑

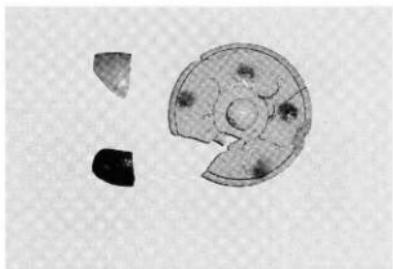
1区遺物(1)



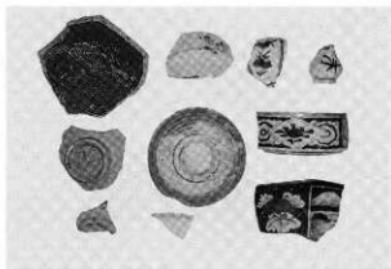
1号井戸跡



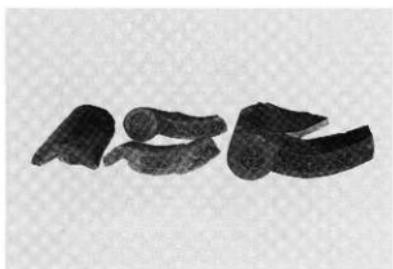
調査区内



1号井戸跡・ピット等



調査区内

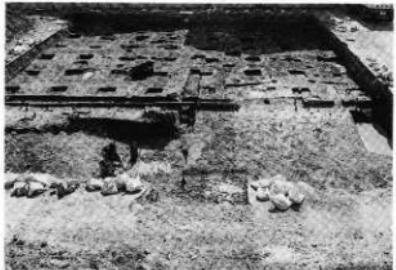


8号土坑



金属製品

1区遺物(2)



2区全 景



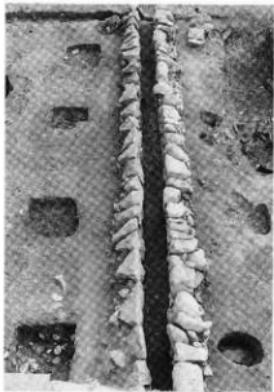
1号土 坑



ピット99・礎石



2号土 坑

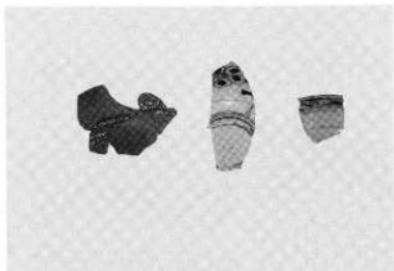


4号溝 跡



2号井戸 跡

2区遺構



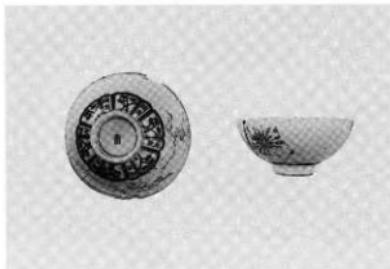
1号建物跡



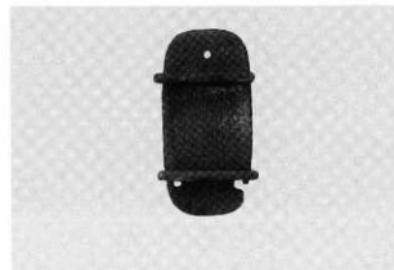
1号土坑



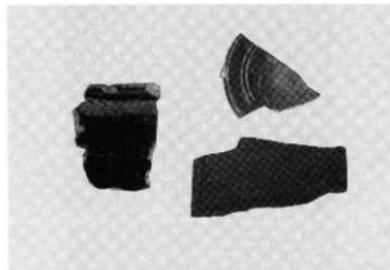
1号土坑



2号土坑



1号土坑



2号井戸跡・ピット

2区遺物(1)



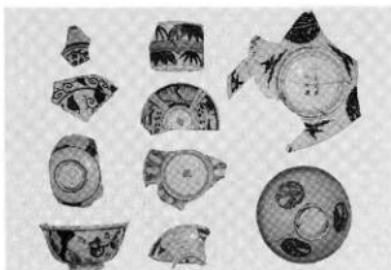
調査区内



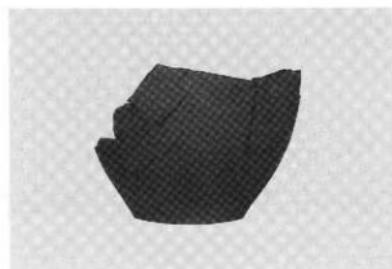
調査区内



調査区内



調査区内



調査区内



金属製品

2区遺物(2)



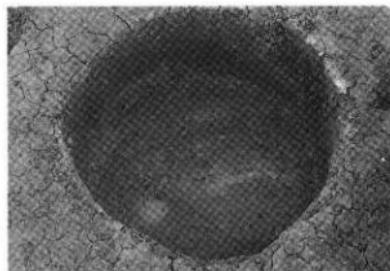
3号溝跡



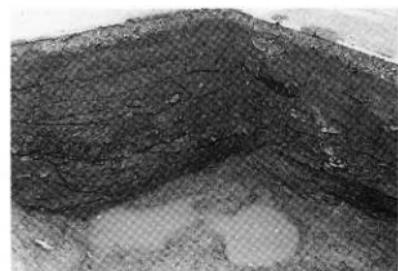
3号溝跡



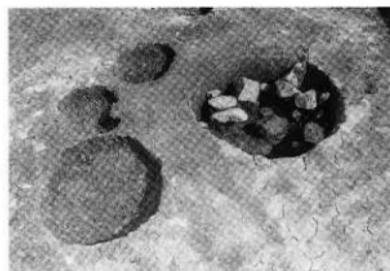
1号溝跡



ピット 6



3号溝跡

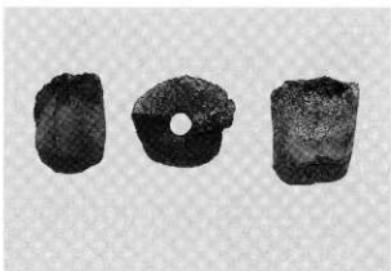


ピット 3・5・6・7

3区遺構



3号溝跡



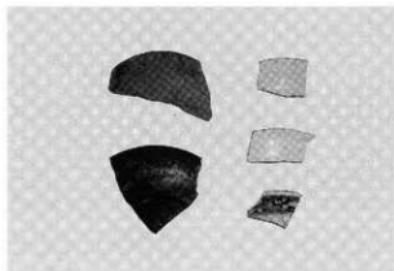
3号溝跡



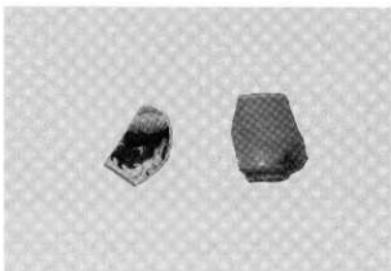
3号溝跡



3号溝跡

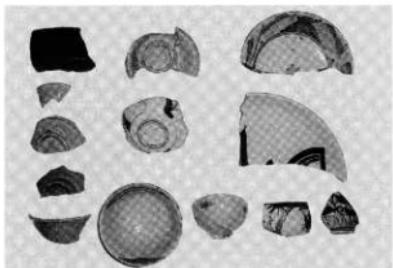


3号溝跡

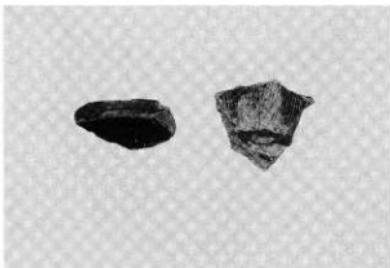


2号・4号土坑

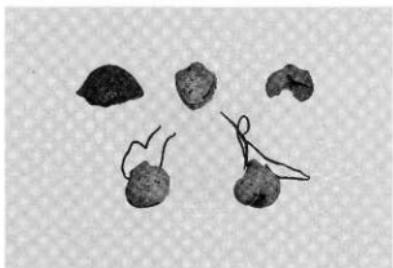
3区遺物(1)



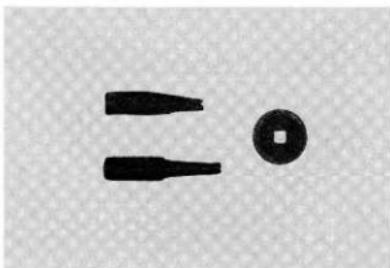
5号土坑



1号井戸跡



5号土坑



金属製品



調査風景



現地説明会

3区遺物(2)

報 告 書 抄 錄

ふりがな	こうふじょうかまちいせき						
書名	甲府城下町遺跡						
副書名	武田二丁目（いちやまマート駐車場跡）発掘調査報告書						
卷次	II						
シリーズ名	甲府市文化財調査報告						
シリーズ番号	19						
編集機関	甲府市教育委員会						
所在地	〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号 電話 055(223)7324						
発行年月日	平成14年3月25日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °°'	東経 °°'	調査期間 H13.1.18 - H13.4.19	調査原因 マンション 建設 650m ²
		市町村	遺跡番号				
こうふじょうかまち 甲府城下町 いせき 遺跡	ゆきしらしげんこうふ 山梨県甲府市 たけだ こうちょうめ 武田二丁目	19201		35° 40° 03°	138° 34° 26°		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
甲府城下町 遺跡	城下町	中世 近世 近代	溝・土坑・ 井戸・柱穴・ 建物跡	瀬戸美濃系陶器・染付・ 青磁・白磁・木製品			

甲府市文化財調査報告19

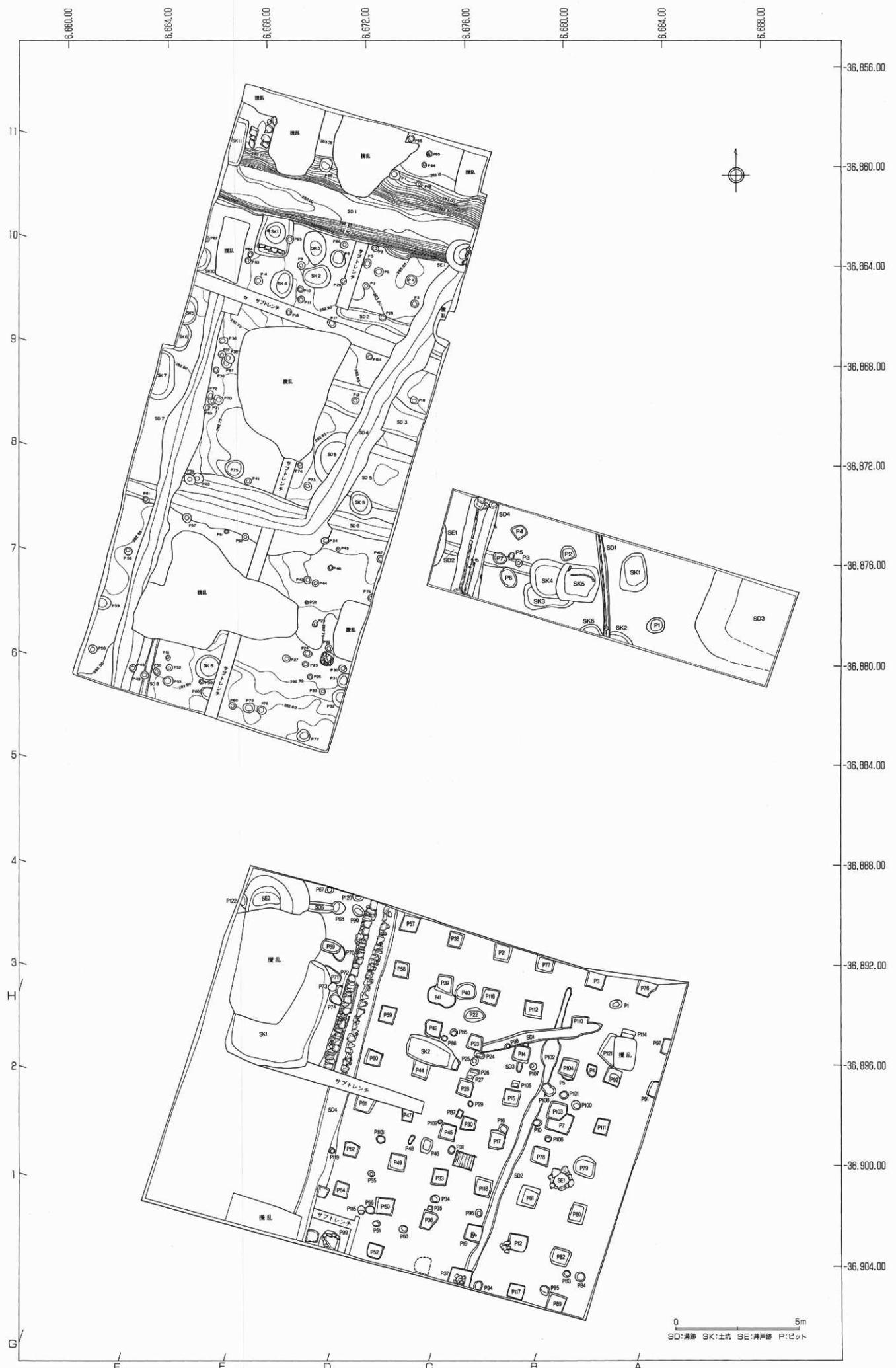
甲府城下町遺跡 II

—武田二丁目（いちやまマート駐車場跡）発掘調査報告書—

平成14年3月25日

発行 株式会社 穴吹工務店
甲府市教育委員会

印刷 梶内田印刷所
〒400-0032 山梨県甲府市中央二丁目10-18



甲府城下町遺跡（いちやまマート駐車場跡）全体図

